

特 252

545

昭和十五年十二月

第一回
吏道修練講習会
講習生成想集

主催 日本文化協會
發行 內閣各省



0007418-000

特 252-545

吏道修練講習会講習生成想集

日本文化協會

第 1 回

昭和 15

ABH

特

545

昭和十五年十二月

第一回
吏道修練講習會

講習生感想集

主催 日本文化協會
後援 內閣各省

本感想集は第一回吏道修鍊講習會を終了
するに際して講習生五十一名中三十三名
に受講感想を綴らしめたるものにして筆
者姓名は便宜上匿名とせり

特252
545



想
集



感想 其一

一、感謝の言葉

時局多端にして國務益々重大の折柄、將來官吏として巢立たんとする受講者一同にとり、眞に適切にして効果ある本講習會の如きを率先開催の勞をとられ、且會期中一同の萬般の御世話を辱くした協會當事者の御努力に深甚の謝意を表する次第である。

二、感銘深かつた事項

(イ) 講師諸先生殆んど例外なく述べられた皇國體の精華乃至上御一人の御聖徳に關する諸先生直接の御體驗からの御講話によつて、從來稍もすると地についてゐなかつた自分達の官吏道に對する心構へに深い反省の機會を與へられた事をよろこぶ。選ばれたる赤子としての名譽と責任を自覺し、御聖旨に副ひ奉るべきを痛感した。

(ロ) 坐禪に就いては初經驗で多くの受講者に何らかの體驗を得せしめた様であるが、自分は全く始めての經驗であり、且會期短く豫めこれに對する心の準備も出來てゐなかつた爲か、直接坐禪そのものから得たといふものはないが、唯坐禪の型乃至雰圍氣に接する事によつて結局禪そのものが目指してゐるものへ到達しようとする努力への契機を與へられた事は得難い收穫であつた。

(ハ) 早朝の起床、掃除その他の行事が寒冷の中にも整然圓滑に行はれたのを見て、平生の自分の不規則な生活を反省すると共に、何事も實行すれば必ず出来るといふ自信を與へられた事を感じてゐる。

三、協會に對する希望

(イ) 講師諸先生は當代一流の諸名士で、受講者一同に何らかの自信を與へた事は疑ひないが、この會本來の趣旨に照して、いまだ少し講師の範圍を擴張すると共に若さを加へて欲しい。

(ロ) 講師を中心とする座談の機會を多くする事。

(ハ) 晝間の通學出勤等は廢して、内容の充實嚴格を増した方が効果大なる様に思ひます。

感想 其二

拜啓 嚴寒之砌り益々御清榮之段奉賀候

陳者、先に行はれたる吏道修鍊講習會に就て感想を左に簡單に申上候。

一、吾人の受けたる從來の教育は餘りに一面性に偏したること。

われ／＼の受けたる在來の教育は、過去の封建制度を打破するに急にして、その爲に日本古來の姿を見失ひたる教育者により授けられたる教育であつた。その爲、われ／＼は無意識の中に歐米崇拜の氣風を醸成し、日本古來

の美點所謂『日本的なるもの』を閉却せることなり。

二、その『日本的なるもの』への探求こそ自由主義、個人主義の再修正の過程を通しての吾々の任務でなければならぬ。「歴史は繰返す」そは至言なり。然し、そは畢竟不完全なる人間の相對觀念の闘争にすぎない。われわれはよりよき人間への道を探求せねばならない。相對觀念の闘争、換言すれば自由主義による封建制の打破、全體主義による自由主義の修正等々、何れもその一面的イデオロギーの闘争にすぎない。われわれはその闘争を通じて、何かしらそこに何物かを發見せねばならない。そのあるなにもは、或は皇道精神の發露たる八紘一宇の精神かもしれぬ。われわれはそれへの探求への積極的意欲を持たねばならぬ。

三、講師の方々に大いに啓發され裨益する所大で深謝して居りますが、よりよきを申すなら、民間の人の言をも聞き比較綜合をしたかつたのでした。所謂經濟人の鍊達の士を招き、とつくりその腹臍なき意見を聞き、その考方を知り度いものです。

四、坐禪に就ては、普段自己といふものを省みる時間を特に有たなかつた自分にとつて、禪は實に自己反省のよき機會であつた。無と有・善と惡とを超越したる絶對の境地に没入出来たら本望でせうが、到底吾人には到達し得ないものならぬ。遮莫それへの近似點へでも到達し得たいものだと思ひました。

五、とにかく本講習を通じての自分とそれ以前の自分とは同一のものでないといふ事を斷言できる自分を嬉しく思ひます。

感想 其三

拜啓 今回は我々の爲めに有益なる講習會を御催し下され、受講者の一人として茲に厚く御禮申上ぐる次第に御座候。

小生幼少の頃よりこゝに十數年力及ばずながら専心勉學に一身を捧げまいり候へ共、現代教育の弊より到底免るゝことを得ず、その爲す所専ら概念の遊戯に墮し、常に自ら顧みて割切れざるものを感じ居り候が、今回貴協會御主催の講習會に参加致し茲に一の解決點を發見することを得ましたことは、小生にとつて、一大收穫とも云ふべく、非常に心強く存じ居る次第に御座候。特に今回の如き御催しは來るべき國家の一大難局を双肩に擔つて立つべき我々少壯官吏候補者にとつて絶好の行事と存ぜられ候間、今後此の種の催しは愈々その内容を擴充せられつゝ續行されんことを希望致す次第に有之候。

右略儀乍ら取敢へず御禮申上ぐる次第に御座候。

敬具

感想 其四

謹啓 吏道修鍊講習會に對する感想は、懇親茶話會に於て既に受講者より開陳ありたる所に候へば、改めて申し上べき處も無之候。

唯最初の試みにも不拘、豫期以上の効果を收め得たる事は、主催者たる文化協會の吏道刷新に對する熱情と綿密なる計畫の賜と存じ候。

高遠なる理想もさる事乍ら、共同體的精神を把握するには團體生活こそ最上の途なるを思へば、僅々一週日には候へども講習會の意義の重大なるを痛感致し候。此の上かゝる講習會と各省との連絡をより深くする事は何よりも重要と存じ候。講師の多様性及より若き方々をとの希望には小生も同感にて候。禪は思ひの外に強き影響を與へたるものと存ぜられ、不言實行の四字は確く小生の心を掴み居り候。

亂筆亂文多謝

感想 其五

拜啓 前文御免下され度存じます。

今般、貴協會主催、第一回吏道修鍊講習會に講習生の一員として参加いたし、一週間の講習を通じて得た事の少ないことを感じ、貴協會に對し深い敬意と感謝とを捧げますとともに、將來この種の有益なる試みが益々擴充されてゆく様期待と希望とを抱く次第であります。扱、お求めにより左に思ひつくまゝに二三希望なり感想なりを述べさせていただきます。尙、事務的な方面に偏しましたことは短時日の間に考をまとめた爲で、この點御諒承願ひます。

一、會期を今少しく長く、又一回の受講人員を今より少しく少くし、お互の間の親密さを加へ、鍛鍊の實をあげたいと思ひます。尙、出来れば官廳の方の同意を得て、四月採用直後、休暇を貰つてやつたらどうかと思ひます。學校の講義と併行して講習をうけることには、かなり肉體的にも時間的にも餘裕を缺いたやうに存じます。

一、講師については、その餘りに官吏に偏したことは既に指摘せられました。私としては更にそれが内務省系統に偏したやうに思ひます。総合的知識を要求せられる今日の官吏としては、あらゆる方面のエキスパートの講話をいさぐ必要があるやうに思ひます。又、官吏としては、なるべく現役の人に願ひ度い。舊人の話は概ね處世訓に墮してゐます。これも悪くはないが、一人で澤山であり、あとは今少し現實に政策を取扱ふ人々をもつて充てていた

ゞき度く存じます。

一、木下先生のお講話は、非常な感激を以て拜聴いたしました。

一、又、指導に當られた先生方の御指導方法には私は十分敬意を表するものであります。冷い感じの抱かれ易い講習會を暖く潤いを以て終りえた事を非常にうれしく存じてをります。

一、坐禪は非常に結構に存じます。わからぬ乍ら續けてゆく中には、きつと何物かが得られることと思ひます。その端緒をつくる意味に於て、講習會に於て坐禪の手ほどきの行はれるのは十分意味があると考へられます。

一、講演に關しては、それが一般的なものの考へ方、歴史觀にとゞまり、現實に我々の學ぶ法律、經濟、政治の問題にいかにかそれを生かしてゆくかその十分な展開がなかつたのを遺憾に存じます。

一、行政組織の改革といふことが、吏道修鍊の効果を生かしてゆくことの上に絶對に必要であると存じます。人は往々にして大きな組織の中に捲き込まれて自己を失ふことが少なくないからです。

一、將來、各省・内閣に於て、自ら積極的にかゝる講習會を開催すべきであると考へます。

最後にこゝに貴協會に對して重ねて敬意を表し、又その御勞苦に對して、心から謝意を表する次第であります。

以 上

感想 其六

八

國際狀勢は頓に緊迫し、國內に於ては新政治體制の確立に向つて民族の總ゆる力が綜合せられなければならない今日、明春學窓を出で、官吏としての御奉公をすべき私達を種々御導き下さいましたことは、誠に意義深いことと存じます。

比較的規律の正しくない生活をしてゐた私にとつては、此の一週間は正に劃期的な一週間でした。起床から就寢に至るまで、可成規則正しく行はれた日課は、日課それ自體が私にとつては既に重大な意義を持つてゐます。しかも、その中に種々な行的修練が行はれ、有益な御講話がなされて、更に一層大きな意義が加はつて來ます。奥村、平出、沼田諸先生の國防國家に關する種々の方面よりする御考察を拜聽出來たことは、特に感銘深く、更に、星野、木下兩先生による國體の根源に關する御講話は、私達に深い反省の心を惹き起し、紀平、橋田兩先生の深き學問的御造詣より生れ來る眞摯な御話、狹間、吉田、潮、香坂、諸先生の官吏としての御經驗談には波み盡すことの出來ない滋味を感じました。大學の講義では殆ど觸れられない、重要な事柄について色々お教へして下さった事は誠に有難く思つて居ります。

行的修練として行はれた毎朝の清掃作業、夜の坐禪は、種々の御講話とは異つた意味で大きな影響を私達に與へた

ものと思つてゐます。特に坐禪は私に何等かのものを與へました。靜寂な靜修堂で、一時間づゝ坐つた一週間は私の永久に忘れることの出來ない一週間でありました。

かく考へて参りますと、此度の講習會は、總ゆる意味に於て非常に有益な御催しであり、かゝる御計畫をせられた日本文化協會に對しては深く感謝いたして居ります。然し、個々の點について見るとき、最初の催しであつた故でもありませんが、多少意に満たぬ點がありました。甚だ僭越ですが、後の講習會のためにもなるかと思ひ、茲に記します。

かゝる修練のための講習會は、規律の嚴正なことをその要件としてゐます。従つて時間は正しく守られねばなりません。最初の開講式は午後一時を相當過ぎてからはじまりました。勿論、種々の御都合もあつたこととは思ひますが受講者としては餘り氣持のよいことではありませんでした。日課の時間割も餘り正確には行はれませんでした。此の責任は、大半、受講者にあると思へますが、この點もつと嚴格な態度をとられて然るべきだと思ひます。

次に、講話の内容に多少偏頗なものがあるのではないかと思ひます。官吏になるためには、官吏として踐むべき道を心得てゐなければならぬことは當然ですが、それにしても、餘りに、内務省系の前官吏の方々の講話が多すぎたのではないでせうか。更に國家の各方面の人材を招聘して、經濟狀勢、政治狀勢、自己批判に非ざる官吏に對する批判等をきくことが出來れば、一層有意義であると思ひます。

生意氣なことを色々記しましたが、かゝる些細な點はともかく、私がこの講習會から得た感銘は多大なものがありました。今後この精神を體して、益々精進いたします。協會に於かれましても、今後の受講者のため、益々御研究を

重ねられ一層の光輝ある成績を以て、第二回第三回の講習會を遂行せられんことをお祈りいたします。

一〇

感想 其七

前略 第一回東道修鍊講習會を終つてから既に一週間を経過致しましたが、その間、歸省の準備等に追はれて落着かず、只今歸省してやうやく落着いた所です。その爲大變遅くなりましたが、甚だ纏まらない感想を思ひ出すまゝに書き並べてお送り致します。

先づ第一にかかる講習會の開催を企てられ、又その全期間を通じて本當に御親切に御世話下さいました日本文化協會の方々に深く敬意と謝意とを表する次第です。

次に講義について申します。私は何よりも 聖上陛下の御聖徳についての、木下先生、星野先生の御話を深い感激を以て拜聴致しました。此の感激はいつまでも忘れることはないでせう。

平出先生の御話をはじめとし、多くの先生方のお話によつて時局の極めて重大なることを認識し得たことは、貴重な收穫の一でした。私達に課せられた責務の愈々重大なるを痛感致しました。

潮先生、吉田先生、挾間先生等大先輩のお話も種々具體的實例に觸れてのお諭しは、時代が如何に變らうとも變ることのない眞理を含んで居り大變有益なものでした。橋田先生がそのお話の中であげられた「有纒爲公之心は私心」

といふ一句には深い感銘を受けました。

奥村先生からは、若き指導者の雄叫びを聞く事が出来ました。私は更に多くの若き官僚の眞摯なる叫びを聞きたいと思ひました。それとともに産業の第一線に活躍して居られる民間の方々の考へをも伺ひたいといふ考へが致しました。

私達は、諸先生から日本精神、日本的な考へ方といふことをいろ／＼と教へられました。私は最初に志田先生の言はれたお言葉に従つてすべてのものをそのまま受け入れようと努めて見ました。特に、從來の西洋的な學問の缺陷と之に對する日本的な考へ方といふことについては、それが從來教へられて來た考へ方と著しく異なる爲に、又時間が短かかつた爲に、十分に理解してその論理の進展について行くことが出来ませんでした。

最後に、講義以外の事柄一般については、餘りに時間表が充實してゐて休息の時間、お互に語り合ふ時間の殆どなかつたことが物足りませんでした。ある時は全員で、あるときは各班毎にといふやうにお互に語り合ふ機會をより多く與へられんことを希望致します。指導者を中心とする會なども度々開かれれば有益だと思ひます。

現在私は此の講習會に参加させて頂いて本當によかつたと思つてゐるといふことを申し上げて此の感想を終ります。

感想 其八

本年度高等試験合格者に對し、新政治體制下に於ける官吏としての心構、吏道刷新の精神等の修練の爲、本講習會があると聞きました時、單に時局便乘的のものであるとか、今更文化協會の指導を仰ぐ必要はあるまいといふので、参加を見合した者もあつた様ですが、小生漠たる氣持ながらも参加したことを幸福に思つて居ります。實は、講義の内容よりも、他省の連中と共に合宿生活を送ることが出来るといふ點に非常な期待を持つてゐました。

先づ、會場たる有栖川公園内東京府養正館の設備、寄宿舎内に於ける各般の施設の完備、食事等餘りに期待以上で誠に勿體ない位でした。我々が氣持よく生活が出来たのも、この點に負ふ所が少くない様です。たゞ食事の時先生方が一所に集り、且原則として談話を禁ぜられたのは淋しいものでした。先生方が我々の間にも入つて來られ、共に談笑することが出来たら、親しみも増し、我々五十一名の名前ももつと早く覚えられたでせう。殊に時間の餘裕がない本講習會ではこの感を深くしました。

講義内容に就いて

國體の本義吏道に就いて等の話は、我々が今迄受けて來た教育とは全然方面が異つてゐただけに、興味深く、且反省の機會を與へられたことを喜んでをります。殊に、志田先生のお話は、國家が國內に於て全體主義を昂揚せんとし

ながら、外に對しては、個人主義的傾向を取る矛盾に解決を摸索してゐた小生に多大の示唆があつた様に思はれます。木下講師の講話には、たゞ文句なしに感極まる許りでした出来るなら現侍從のお話ならよかつたのですが。

官吏としての體驗談は、人柄にもよるのでせうが、潮惠之輔講師より、多大の感銘を受けました。次回の講習會にも是非お呼び願ひたい。

海軍大佐平出英夫講師の國際情勢に就いてのお話は、日本の危機について實感を以て迫り、官吏としての責任を痛感しました。

沼田少將の講話は、文化協會の方で題を選定されたとかで、大分話しくさうであつた。

坐禪は始めてであつたが、非常によいと思ひます。奥野慧海師があつた如く鋭い人であつたから、短時日の中に成果大なるものがあつたと思ふ。平生は物事に追はれ自己を顧る暇のなかつた小生は、自己の眞實の姿を直視することが出来ました。吏道體得には、國體の本義について話を聞くのもよいと思ふが、禪の時に自己を深く掘りさげ掘りさげして自己革新が遂げられる時に、問題のすべては自ら解決されると思ふ。

尙時間表によると、講習生同志が話し合ふ機會が少いのが残念でした。眞の意味の家族的大學が未だその實踐過程にあるとき、本講習會で高等學校及省を異にする同志が深く話し合へなかつたことは、本講習會の一大缺點と思はれます。講義の内容に就て及禪の時にひたすら道を求めて考へたことを吐露し合つてこそ、偏狹な考へを免れ、講義内容を體得し、理解する所以と思ひます。

次回講習會への希望

講師に各省で活躍されてゐる若手の話があつてよいと思ひます。

農林省から一名の参加もないのは奇異に感ずると共に遺憾です。

宮城外苑整備事業等の勤勞奉仕等の行事があつてよいと思ふ。必ず大なる成果を齎すであらう。

最後に、明春卒業に當り、意義ある生活を送り得た事を深く文化協會及講師に感謝します。

尙本講習會に對する感謝と期待の念よりして、文中妄言もあることと思ひますが御容赦下さい。

感想 其九

一週間に互る講習會に於て得た我々の收穫は、極めて大であつた。我々は先づ何よりもこの拙い我々を熱心に指導して下さつた諸先生に、感謝の念を捧げねばならぬ。

最後の懇談會にて皆が異口同音に述べた如く、私も又、この會で受けた最も大なる感銘は、「敬虔」の一語に盡きる。早朝の清掃・神祠參拜のすがすがしさ、夜坐における心の透徹が、我々の傲慢と虚榮とを幾分でも除去してくれたのでもあらう。又、諸講師の講話中に我々を謙虚ならしむる因素があつたかも知れぬ。が、我々が一週間、たとへ動機的には他動的であつたにせよ、眞面目に、眞剣に自己を省み、「己を盡す」べく努めたが爲に外ならない。道を求むることは生易しいことではないのだ。絶えず自己に鞭打ち反省し沈潜し苦惱し續けてゆく處に、この不斷の自己

精進にこそ、一切の人生の眞價値がある。自己の貧しさと弱さとは、この求道の遍路を進めば進む程痛感される。ここに自己への謙虚がでてくるのだ。自己を虚しくすることは、一切の事物への敬虔として現れる。正しく「敬事而信」こそ、又、「敬天愛人」こそ、安價な教養と不遜な慢心とに凝り固つた日常の我々への強き警策であらねばならない。かく考へてくると、我々はあの講習會に諸種の注文をつける前に、もつと我々自身の心的態度を反省せねばならぬ様に思はれる。忌憚なく言つて、我々は更に眞面目に生活し、懸命に行すべきであつた。相互ひに素裸になり、死物狂ひで精進し鍊磨してゆく氣魄に負けて居た。禪師に要領禪だと評された我々の幾分でも安易な態度は徹底的に反省さるべきであると思ふ。

と同時に、甚だ僭越であるが、講習會開催側の會の目的はもつと判然として欲しかつた。雜然と色んな題目を並べてあつたが爲、會の内容に中心が無い。會期の關係もあらうが、短期の會のことであるから、何か一つ例へば新體制の實體、或ひは根本的に日本精神の究明などの問題を中心に、受講し討論し行すべきである。然して、日本文化協會の趣旨から云つて「日本文化の本質」の徹底的研究が希望される。この中心的課題を回つて總ゆる階層の講師が網羅され、題目も選定されねばならない。

現代日本の苦惱は、結局日本文化―廣義の確立―の努力である。高度國防國家といひ、新體制といふも、我々は世界文化史的に事象を溯らしめねばならない。我々は、その意味で志田先生の所説と人格より最も學ぶ所大であつた。人ありて、例の「日本精神」の會なら眞平だといふかも知れぬ。併し、次の時代を背負つて立つべき若き知識層が、日本の原理も方向も認識せずして、否、その努力さへ始めようとせずして一體どうなるだらうか。勿論、菲才たる我

々、日本文化の本體を把握して居る筈がない。が、我々は、日本なる歴史的現實に呼吸して居るのだ。問題は客觀的對象ではなく、我々自身主體を通じて居るのだ。飽く迄眞面目に、協力してこの問題の實踐即理論的、直觀即科學的究明へ突進して行き度いと考へる。

そしてこのことが、本講習會への萬分の一もの御恩返しとなることと信ずる次第である。

感想 其十

一週間の吏道修練講習會の感想を草するに當り、先づ本會を御計畫下されし方々、諸講師指導員方々に深甚の敬意と感謝の意を表する次第に御座候。

思ふに、此の一週間は、小生此の世に生を享けて以來、最も充實したる生活を體驗致し、感謝感激の念を以て送らざる一日も無之次第に候。

假令、今後何ヶ年學校生活を送るとも、恐らく得られざる體驗と思惟仕り居り候。何よりも 天皇陛下の民草を御仁慈下され給ふ大御心の程を承けたまはり、未だ會てなき感動に打たれ愈々七生報國の念を固くし、臣民たる我々如何にして此の御鴻恩に報いんかの念に懼るる許りに御座候。或ひは國際狀勢、國內狀勢のあまりにも緊迫せるを聞き偷安の夢をむさぼり居りし過去の生活に深く罪を覺えし次第に候。

又、皇國官吏としての心構を拜聽致し 陛下の大御心を體し、身命を賭して官吏のつとめを果したく決心仕り候。若し夫れ、今後官吏となりて大御心に副ひ奉る事憚らざらんか、何時にても自決致す覺悟に御座候。

「科學に於ける日本的なるもの」に就きては、小生の考未だ模糊たるものに候。唯從來の方法、見方、考へ方以外に新しき何ものかが、恰も深夜に遠方の燈を見る如く微かにまたたきをするを覺えるのみに候。從來の西洋文明に捉はれ、それ故文化的、經濟的に西洋文明に支配され居る現状を思へば、東亞共榮圈の必然的要請は、「日本的なるもの」「東洋的なるもの」による科學の再建設と存じ候。今後大いに勉學此の方面にも研鑽致す積りに候。

身自らを苦しめる坐禪は、小生をセメントの如く固め居る舊殻を破る爲、今後とも續けたく存じ居り候。

最後に來年度よりの同志の會合には大いに賛成致し度、

簡單乍ら、本講習會の感想を記し、小生の決心を披瀝致す次第に候。

感想 其十一

拜啓 文化協會の諸先生に先づ以て御禮申しあげます。昨日後藤文夫先生にお會ひした際にもお話し申し上げましたのですが、十六年に亙る學校生活より以上にこの一週間の講習は感銘深く感じて居ります。といつても學校教育を無駄といふではありませんが、

希望としては、

(一)、民間の人物を講師に入れていただくこと。
 (二)、他の人は年齢の若いことを云々されたが、小生は年齢が若くても精神年齢が老いてゐては仕方がないので、年よりも精神年齢のお若い方を歓迎致します。

(三)、志田先生が午前中にでも古事記講義といった風のを有志にだけ規則的にやつてゐただきたく思ひます。
 (四)、官途について後も、時々會費はこちらもちにしていでも講習會を開いて下さること。

この講習會に於て、官途について後の心掛けとか、態度について自信とまでゆかぬとも何かつかんだことは、小生の今後非常に有益と思ひます。こんなのはやはり年とつた大先輩のお話しによらねば駄目なので、若い人の話しては感銘ありません。あんな大先輩でも、若い時は又あんなことがあつたのだと思ふ時、我々は感銘深く教訓をのみこむことが出来るのだと思ひます。

坐禪もはじめてやつたのですが、指導者のよきため非常にかへりみて愉快に思ひます。松谷さんのお話しはわずかの時間でありましたが中々内容深く感じ、とくとお話しをうけたまはりたと思ひました。友人と非常に打とけえたことも大收穫で誰かも云はれましたが、圖書館等でむつりして感じが悪い奴だと思つたのが大なる間違ひであつたと思つてゐます。星野・木下兩先生の御聖徳講話は非常に感銘づけられました。我々官吏は 陛下のお心持を國民に傳へる重責を荷ふものであり、我々の失敗は 陛下にいかにも大なる御迷惑をおかけするかがはつきりと分り、今更ながら官吏としての自重を痛感致しました。

最後に、今後とも文化協會の諸先生並びに指導の諸先生の御指導をお願いし、厚く厚く御禮申し上げ、御期待の萬分の一にも答ふべく官吏としての御奉公にすすむ考へでございます。

感想 其十二

大變遅れて誠に申譯御座いせんが、簡單に一週間の吏道講習會の感想を思ひつく儘申し述べさせて頂きます。

私は、初めから吏道の修練等と云ふ事は餘り期待してゆきませんでした。それよりも、寧ろ行的な訓練に依る膽力の養成、実行力の増進といふ事を期待して出席しました。といふのは、官吏にのみ特に要求される道などといふものはなく、官吏たると會社職員たるとを問はず、學生とは異なるものが要求される——それは実行力に外ならぬと考へてゐたからです。然し、何事にまれ、實行する際その方向を定むべき信念といふものに餘り考へ及ばずに居ました。唯よき日本人として行動すれば可なり位の考へで、敢て日本精神といふものを意識の上に昇せ検討する様な事をせず、我々日本人は誰かから説明されずとも持つてゐる日本精神を喋々する人々に軽い反感を懐いて居りました。で講義の方は餘り眞面目にきく事は出来ませんでした。が一週間講義を聞いて、日本人であるから特に日本精神等といふものを自覺して行動する必要はないといふ態度の誤つてゐる事を感じました。吾々は日本人なる以上日本精神を本來的に具有してゐる事は確かです。然し今までの教育生活に依つて曇らされてゐる場合多く、常に意識的に日本人としての

自覺を持つ様に努力せねばならぬ事を痛感致しました。講師の方々は、色々の方面から日本人たるの道を説いて下さいました。どなたの講義がどうだつたといふ様な事を申述べる事は失禮極りなき事と存じますが、唯物的な教育を受けて育つて来た爲か、抽象的な説明よりも現実具體的なものに出發してゐる木下帝室會計審査局長官、奥村書記官等の御話の方が理解し易く思はれました。古事記も日本精神の解明には必要なものとは思ひますが、どうしても迂遠な感は免れず、短期間の講習では親しめませんでした。兎に角、今度の講習に依つて日本人の道に對して一應眼を開かせて戴いた事を深く感謝します、と共に、今後の短期の講習會に於ては、現代の現實の教育、及びその缺陷と若き人の氣持を知悉せる講師の現實に即應した講話が最も好ましく思はれます。

大抵團體行動を採る場合さうである様に、今度の講習會も相當嚴格にやられるだらうと豫期して參加した所、自治に委ねる所多くルーズにさへ感じました。で講習直後にはこれは遺憾な點だと思つてゐましたが、よく強制されてやるのでは誰でも出来る事でも、自治に委ねられると仲々出来ぬものだといふ事、否應なしに自分の個性がよく現れ、陰す事も出来ないといふ事を、無言の中に教へて呉れる仕方として賛成です。坐禪は最も苦しかつた様に感ぜられましたが、唯の一週間位の事では何を得たとも申し兼ねる状態です。

高等學校卒業以來、團體的生活から全く離れてしまつた私にとつては、多くの學友と共に一週間生活したといふ事だけでも非常な喜びです。その上、日本精神研究に就いても些か興味が湧いて來ましたから、今後法律經濟の勉強と共に少しでもその方面の書を繙きたいと考へてゐます。

以上、甚だ蕪雜で恐れ入りますが、一週間の養生館生活の感想です。

感想 其十三

官吏たる者にその職務の本質上、一般人より特に高い徳と知と、そうして嚴格なる戒律が必要であることは議論の餘地のない所だと思ひます。まして、今日此の祖國の重大な時局にあつて、官吏の擔當する部面が廣汎且つ深刻な時尙一層官吏が精銳であることを要求されてゐます。然るに、現状に於ては、大學の法科の教育を受け、高等試験に合格した私達が直に官吏となつて、實務を擔當することになるのであります。私達が現在、有してゐるものだけでは、右の様に重大な官吏たる職務をつくすのに、どうしても何ものか、缺けてゐると思はれます。

而も今日、國家統制の深刻且廣汎なるにつれて、官僚獨善といふ如き官吏に對する非難の聲が盛に叫ばれてをります。また官僚統制に同情的な見方をする人ですら、現在の官吏の能力を以てしては、官僚統制の現状も「必要悪」と觀念して居る情勢であります。國民が望んでゐるものは、官僚獨善ではなく、官民一體であり、必要悪ではなく、必要善なのであります。そういふ希望の實現を義務づけられてゐるのは、まさに私達なのだと思ひます。私達この時局下に於て官吏たらしとする者は、平穩無事な時に必要とされる以上の強い意思と深い知とを持たなければなりません。

今回の吏道修鍊講習會とは、正にこのやうに、時代の如何に拘らず、官吏たる者に、普遍的に要求される徳と知と

共に、更に時局の重大性から要求される高い倫理感と、深い知識と、たくましい実行力とを訓育せんとするものだと思います。それはまた總ゆる方面の新體制に應じて官界新體制の名の下に行政機構の改革、官吏制度の改革と共に叫ばれる吏道刷新の要望に應へんとするものだと思います。勿論この講習會がそれらの要求を一舉に満足させるものではありませんが、少くとも、そのうちの最も根本的なものを目標としてゐると考へられるのであります。吏道の刷新とは他の總ゆる革新と同じく、たゞ新しい理念をふりかざすのではなく、究竟は官吏たるものが深く國體の本義に徹し、今日の時局下に於てその精神内容を高め且強い実行力を持つことにあるのです。

私は、此の修鍊が學校の教育と高等試験合格だけでは尙不充分である精神的訓練を與へると共に、新體制の一翼たる吏道刷新に資せんとするものだと思います、そいふ心構で参加しました。

講習會に於て課せられた諸々の行的鍛鍊は、私にとつて始めての経験でありました。早朝の行事と云ひ、清掃作業といひ、坐禪と云ひ、殆どいままでの私の日常生活にとつては、正に革命的なものでした。それ故に始めはすいぶん辛いことでした。然し、考へてみればそれらの行なるものは、決して異常なものではなく、極めて日常なことです。だから二日經ち三日經ちすると、苦しいよりむしろ爽快なものでした。たゞ爽快ばかりでなく、生活の充實といふか、精神の豊かさといふか、或る種の喜びといふやうな氣持さへ持てるやうになりました。今回の行的訓練といふものが、直接には、前に云つたやうな現時局下に於て官吏に特に必要な精神と知識には關係のないことのやうに思はれたのですが、吏道と云ひ、官吏に必要な徳と知といふも、實は結局の所、人間の鍛鍊、私達日本人にとつては日常の行爲を通じて國體精神を身につけていくことだと考へられるやうになりました。一週間の合宿に於て、毎日／＼

のひとつひとつの私達の行ひ、清掃も食事も凡て平凡なことです。この平凡なことが人間の向上にとつて決して些末なことでないといふことをおぼろげながら感得出来ました。

それから毎日の行の中で、ひとつだけこうして欲しいと思ふことがありました。それは朝の體操です。私達若い健康な者にとつてラヂオ體操一回だけでは、體中にウツセキしてゐる若い力を發散させるには不充分です。運動として不充分だといふだけでなく、日常の生活が相當規則正しく、禮儀嚴格なものでありますだけに、朝の體操の時には力一杯腕をのばし、脚をあげたいと思ひます。それに寒い折だつたので、體が暖かくなるほどの激しさが欲しかつたのです。體操でなく、擊劍でもよく、また力一杯鉄を土に打込むことでもいゝと思ひます。要するにラヂオ體操よりもつと力強い肉體運動をしてみたいと思ひました。

次に、この講習會の重點であると思はれますいろいろの講義についてですが、この立案にあたられた文化協會の諸先生の御苦心により、他では見られない多様な内容の充實したものであります。

大體、日本精神に關する講義は、私達が不幸にしていまゝで接する機會を持たなかつたものでありますので、たいへん貴重なものでした。然し、何しろ殆ど始めてと云つてもいゝくらいなものなので、理解し、體得し得た部分は少しもなかつたやうです。もちろん私の非才の故でもあります。

私が、高等學校から大學を通じて今日まで養はれて來たものは、殆ど凡て合理主義的な世界觀或は哲學と云つたやうなものでした。これら世界觀乃至哲學が國體に關するふたつの講義によつてだぶ動搖させられたといふことです。私達が今日まで養ひ來つた世界觀が、非日本的であり、或は個人主義的なものなどは、どうしても考へられない

のでありますが、それらが現在やうやく行詰りの危機にあり、そうして現實にあらはれてゐる諸々の世界的紛亂・危機の様相が結局に於て哲學・世界觀の危機であることを、おぼろげながら感得しました。そして、われ／＼日本人がこの危機を突破していくのに、もういちどわれ／＼が祖先からうけついでたものを再検討してみても、そこに將來への光明を發見しようとする立場が少しは諒解されるやうな氣がしました。

紀平先生の講義、志田先生の講義、素直に聞かう／＼と努力したのですが、私のうちにある既得のものが何かしら障害になつてゐました。私はそれらの講義から何かを得たと、いまこゝでいふ勇氣はありませんが、われ／＼が今まで考へてみなかつた何かとそこにあるといふこと、そして、それはたしかにわれ／＼がこれから眞面目に考へていかねばならぬものだと思ひました。

次に、官吏の實踐的な徳のもろ／＼に關する講義は印象深く拜聴しました。深い體驗から出たそれらの御話は忘れないでゐるつもりです。

國際情勢、總力戰、新體制等に關する御話は、われ／＼が最も知り度いと思つてゐたことでありましたので、その時間の尠いのを残念に思つたのです。現在の日本が直面してゐる危機が容易ならぬものであり、これを突破していくには、國防國家の建設を強行しなければならぬこと、そしてその建設のひとつの役割を擔ふものがわれ／＼官吏であり、その任務重大且光榮なことを身に沁みて感じ、感激を禁じ得ませんでした。たゞ、これらの講義のうちに、我國家現下の經濟狀勢に關するものが存しなかつたことは、若干遺憾に思はれました。

これらの講義に附加して、もうひとつあつて欲しいと思ふものがあります。

日本の進むべき道は定まつてゐるとして、それに對應する行政機構は如何なる仕方に於てあるべきか、といふ點を知り度かつたのであります。私達は、いづれ各省に入つて實務に携はれば、その各々の分野について、またその分野を通じて、改革の方針を持ち得るでありませう。然し、それより一層廣い立場で、各省の組織とか官吏制度全體に關する現状を知り、見透しを得たいのであります。それらのことはわれ／＼自身が研究すべき事柄ではありますが、講習會の講義にあつていゝと思ひます。吏道といふやうな倫理的なものも、決して官吏の實際の仕事から離れてはあり得ず、それはまた一國の行政そのものゝあり方と密接に關聯してゐると思ひます。

私達は、各省に入れば、その省のことは當然によく知り得るやうになります。他の省の部門に屬することを公平に觀察することは、やゝ困難になるおそれがないではありません。この講習會の機會に全體的な立場から各省の現在擔當せる仕事とその將來について、各省の先輩からひと／＼ほりのお話を伺ふことは意義があると思ひます。たとへば大藏省の扱つてゐる豫算事務とはどんな實狀か、商工省の物價政策とは現實に於てどういふものか、或はまた、遞信商工の所謂事業行政はどんな仕組で、如何なる効果を擧げつゝあるか、など(細いことは必要ではありませんが)行政組織全體について必要な知識を得て置き度いのであります。

それから、また、既に懇談會の席上に於て指摘されたことですが、講師の中に民間人がひとりでもゐて下さつたらいいと思ひます。官民一體といふことが現實に必要である今日、民間の實狀はどうであるか、また民間人が今日の行政、官吏について如何に考へ、何を希望してゐるかは、大に知つて置きたいことがらです。

たいへんまとまりの悪いものでありますが、思ひつくまゝに書き並べました。

私が、あの講習會に於て何を得たか、それはいま申上げるほどのものは持つてをりません。が、これから官吏となつて實際に仕事をしてゆく上に於て、あの講習會が決して無駄なものでなかつたことをみづからも感じ、講習會に御骨折下さつた諸先生にも感じて頂くことが出来ると思ひます。

感想 其十四

感想をお送りする期限に遅れて申し譯ありません。先日の茶話會の席上で諸兄の云はれたことゝ大體一致しますが此處に断片的に申し上げますと。

先づ講師のことですが、相當の歳の人多く、夫等の人々は皆しつかりした信念を持たれた方でしたが、年齢が隔り過ぎてゐる爲に何か直接的にびつたりした所がなく、それまでに至る過程がしつかり把握出来なかつたのが残念です。次に、講師の方々の話される材料が概して同じであつた爲に、同じ事を違ふ人々によつて數回聞くやうなこともありましたが。

以上のやうな點から講師には若い人を、そしてなるべくならば異なる分野の人々を(時には民間の人をも)招かれて、講義の材料も特色のあるものにされたら、と存じます。

それから時間割の配置ですが、もう少しゆとりのあるものを作つて而も勵行させるやうにされたら、夜の就寢時間なども充分とれるでせう。

坐禪は非常に愉快でした。坐禪への入門とまでは行かぬまでも得る所はあつたやうな氣がします。

諸先生の御盡力に對して此處に御禮を申し上げさせて頂きます。

感想 其十五

感想を申し上げます。講師等に關しては、已に皆様がいろいろ申上げましたので、其他感付いた所を雜然と申上げる事にいたします。

一、先づ、修鍊講習會の目的に關してであります。恐らく各省間の人的融合をはからむとした事が主要であつて、官吏としての識見は第二次的である様に見受けられましたが、遺憾ながら兩者とも、目的を明確に意識なさらなかつた——普通よく云はれる既成の講習會概念にとらはれて常識的にやつたために——不徹底の感なきを得ませんでした。

前者について云へば、融合の機會はさ程効果的とは思ひませんが、恐らく各部屋毎に封鎖して部屋間の交流は少なかつた様に思ひます。又、そのための手段も考へられなかつた様です。そのためには、なるだけ多人數で打解ける

機會を作つて戴きたい。これは修鍊講習會の修鍊の程度にも關するものですが、やはり全般的にも不徹底で、日中を自由にする事は前にも申上げた通り遺憾千萬であり、出来るならば日中は勞働なり耕作なり、汗をながし又は野球なりテニスなりでリクリエーションによる自然的融合をはかる事が望ましい様に思へます。

それから識見に關しては、あれでは各講師から斷片的な、ひどい人になると一度話した事を臆面もなく又やつてのける、レコードのかけなほしの様な感なきを得ざるものもありました。現代の青年に欲求されるものは、むしろ斷片的な知識又は經驗の集積よりも、全人的な人間そのものの曝け出しなのであります。識見と情操と温情と世界觀的體系を有する人の曝け出しなのであります。そこにあふれる生命力を我々は汲まんとするのであつて、老骨に鞭打つてなどよりは——之れも又意味ある事ですが——我々にビントくるのです。何故なら、彼等は、官吏として古い、歴史的、時代的制約を帯びた官僚であつて、自由主義を一掃した、又國防國家體制を建設するために綜合國策を立てねばならず、又文字通り挺身的指導者たねばならぬ我々の時代には、新しいタイプの官僚が要求されると思ふからです。奥村氏などはこの一面を示すと思ふのですが、これのみにて満足するものではありません。自由主義、権力分立時代の官界を泳いで、運よく立身したる者を、立身したるの故を以て新しい時代の者にあてがふ事は心外に思ふのであります。

全人的人間の發露には一片の講演では到底盡せるものではない、質問を許すなどといはれても、質問を許す本人そのものが青年に親愛の情を起させる者でなくては如何なる質問が出るかは云はずとして明である。小生、度々質問いたしました、要するに即興的な思ひ付き的質問を意識しながらやつたにすぎぬと思つてゐます。

その意味に於ては、中心的人間が必要である。理想的人間が中心に立つて、人間の寛さと温さと熱と意志力を充分我々に曝け出す様なシステムが欲しいのであります。今度の會では、指導員は單なる事務員、又は世話焼きであつて、もしも志田先生が座談會でもして下さらなかつたら、小生としては大した効果は受けなかつたと思ひます。我々が寄つてたかつて、之の中心者を食ひ盡す様な構想を希望する次第です。

二、次は、識見に關する方面ですが、日本哲學に關する學問的體系を披瀝してもらへる様なシステムが欲しいと思ひます。志田先生がこの點を補つて下さつたのであります、やはり一貫的にやつて下さつたのではなく、斷片的、又は思ひ付きの様な點も少くありませんでした。いろいろの體驗談や世界情勢などの外に、一貫した日本諸學の理論的體系——哲學だけでも結構——を一通りやつて戴いて、講習會が終つてから、斷片的な思出ではなく、ある一つの理論體系を理解して、一つ考へて見ようと思ふ様にさせて戴きたい。志田先生のあれだけでは不充分でした。この事は我々が官廳に入つた後でもやつていただきたいと切に希望しておきます。

三、その他、最後の懇談會で諸君が話された様な事ではありますが、あれは根本は青年の溢るる生命力を理解せよ、といふであらうと思ひます。それは具體的には、青年の指導は青年の手でといふ事に盡きると思ひます。文化協會の今回の企ては本當に感謝する所であります。が、協會本來の使命から考へると人間の練成といふ事は最も重點を置く可きもの、而もそれは具體的人間によつて、具體的人間を指導するといふ方法をとるのが最もその趣旨に適すものと思ひます。願はくは、新しいタイプの官僚を作り上げるために我々自身努力すると共に、任官後も我々と協力して精進されん事を希望いたします。

四、志田先生の話に對する自分の感想、或は、我々學生自身に對する反省は、御要求の中心點をなすと思ひますが、何しろコンバの席上で速達を受けて以來忙しくまことに相濟まぬながら、それは他日にして、静岡からこの拙文をお送りして御恩の萬一を果したいと存じます。

感想 其十六

謹啓 嚴冬之候、諸先生益々御祥慶奉賀上げます。私第一回東道修鍊講習會に参加致させて頂くの惠恩に浴し、深く感謝申し上げます。茲に、講習會に對する感想の一端を述べ、一は以て感謝の微衷を表し、一は以て次回講習會の御参考にもと存じます。

本講習會に於て私の裨益せられたる點。

- 一、眠むさ寒さを克服したる時の爽快さを味得したること。
- 二、朝早く起きて仕事をし、それから喰べる食物の美味しさ、山海の珍味も及ばざること遠しと感じたること。
- 三、國家の柱石とも云ふべき諸講師の、長き官吏生活に於ける眞摯なる體驗談御教訓は、死中に活を得たるが如くに感銘致したること。
- 四、座禪に於て、齒を喰ひしばつて苦しさに耐へる克己心を、少々ながらも味つたること。

五、今迄の我々の學問が、如何にも死せる抽象論であり、個人主義であり、歐米主義であつたかを知りたること。而てこれを止揚して日本的學問を起さねばならぬことを痛感致したること。

六、これからがほんとうの學問の道であると、しみじみ感じたること。今迄の自分等の學問は、遙かにわづかにその門戸を望見したにすぎざるなり、と感じたること。

七、至尊に對する忠誠の念を益々深うしたること。(木下講師の御話に自ら涙下る)

八、愛民の心を深くしたること。

九、現下、如何に我國の情勢が、内外に緊迫してをるかを知つたること。

十、同住同居により、未知の人が友人となつたること。等々。

希望事項

- 一、講習中、無言の行として貰度きこと。
- 二、朝夕父母の居られる方に向つて朝夕の挨拶をする行事を入れて貰度きこと。
- 三、講師に、第一回の時の様な、所謂功成り名遂げた人の外に、若手の官吏(奥村企劃院書記官級の)をも入れられたら尙よろしいかと思ひます。
- 四、陸海軍の講師は、大臣大中將の如き大物を配せられ度きこと。
- 五、午前中もやつて貰ひ度きこと。
- 六、討論會を開催して貰ひ度きこと。

- 七、行動を迅速整然たる様、強行して貰ひ度きこと。
 - 八、着物袴を持つてくる様注意して頂き度きこと。
 - 九、下駄箱の混雑をなくす様にして貰ひ度きこと。
 - 十、支給せられる食事の外に、自分勝手の間食(外から買つて来て部屋で喰ふ如き)を禁ぜられ度きこと。等々之を要するに、私は、本講習會に於て、或は諸先生の御講義により、或は坐禪により、或は他の行事により、開國治家、治心の道標を身愚鈍にして、微かながらではありましたが、與へられた様な氣が致します。これを機會に、益益心身を鍛鍊し、此の心を生活の全面に顯現して立派な官吏となり、上は至尊に忠心もて仕奉り、下國民の心を安らかにし、以て内外多端の日本を、富嶽の安きにをかんこと、一生の念願に存じます。
- 本講習會を心から感謝申し上げます。出來得べくんば、官吏となりて後にも、度々如此き催しをされんことを切望して止みません。

酷寒の折、末筆ながら諸先生の御健康を御祈申上げまして擱筆致します。

感想 其十七

冠省 紀元二千六百年もあと數日に押迫りましたが、文化協會の皆様には相變らず御健勝にて使命に邁進してら

れる事と拜察致します。私も一昨日歸省、反省とより高き向上への努力を續けてゐます。

一週間の長い間、講義に行的訓練に、色々の智識と問題の提起と、更に多くの體驗を得る機會を與へられました事を、茲に改めて厚く感謝致します。閉會式の時御話のありました様に、以下拙き感想をお送り申します。丁寧に書く事を當然心得へますが、便宜上反省の表現として筆を運びます。其の點御了承下さい。

(一)、所謂、インテリの缺點、一般的に言つて、知識の體系化の不足、知識と實踐との分離、と言ふ事が聽て學窓を出んとする私にとつて最近益々不満に感ぜられ、其の解決を求めてゐた。かゝる私にとつて吏道修鍊會の開催の報知は確に一の魅力ある催と感ぜられた。そして私は欣然參加したのである。

結果からみて、私にとつて今回の參會は成功だつたと言ひ得る。然し、勿論私が抱いてゐた理想には遙に遠いものであつた事は勿論である。行的訓練と言ひ、講義と言ひ、私に幾多の體驗と幾多の反省とを與へてくれた事は確であつた。にも拘らず、私には多くの點で希望がある。最後の茶話會の時に私の簡単に述べた事は、今日の私としても尙心中に残つてゐる。以下多少具體的に述べてみよう。

(二)、最初に、行的訓練。その中心をなすものは、勿論坐禪である。奥野先生の最後の言葉『勞して效なし』と言ふ言葉は、今も尙まざく／＼と私の頭に残つてゐる。坐禪そのものが『勞して效なし』か否かは僅かに六時間坐つた私にとつては判らなう。

然し、確によい經驗であつたと私は斷言出来る。精神の集中、妄念の打破が如何に難しいものか、私にははつきり體驗出來たし、此の集中への努力、此處にこそ總ては成ると思はれた。以前から私が抱いてゐた一つの座右の銘、

『求而可苦』と言ふ一句が、より内容的に生きて來た様な氣がする。とにかく此の坐禪、之の時間を相當に増加すべきであると思ふ。解り切つた事をくどくどと説かれる講義よりも、遂に有意義だと私には思はれた。

朝早く起きてからの諸行事、總てよかつたと思はれる。唯、朝の體操は時節柄今少し元氣のある、否、體の温くなるものを選ぶべきではなからうか、我々にとつては寒空に女性的なラヂオ體操は生温い感がある。

朝起きの上き氣持、神祠に詣でての後の氣持、確によい事である。數年來の下宿生活にこれらの事項を怠つてゐた私には、最も激しい感慨を抱いた。良心の鞭は今日迄も毎日私の過去數年の怠慢を責める。

(三)、講義についての感想を述べよう。最初の講義程私には面白くもあり、又興深くもあり幾多の問題を與へられた。吏道、觀念を以つて種々とかれる事もよい。然し、吏道の中心は實踐にあらう。觀念的な話を何人も講師がくどくどと繰返し説かれても、或々は退屈を感じるのみである。吏道、それは何人にとつても我國に於ては一に盡きよう。その一を哲學的な言辭を弄して種々表現をかへてみても、大して私達には、否、私には反響を呼び起さない。寧ろ、具體的な事例を中心として話される方が、私にはよいと思はれた。此の點で、潮先生の講話は私に最も有益(吏道に關する話中)であつた様に思はれる。

今日我國は非常な危機である。その危機の正に爆發せんとする頃に、我々は官吏として第一歩を踏み出すのである。今少し今日の日本についての知識や、詳細なる知識を我々に與へられてもよいのではなからうか。新體制の話、今後の日本の見通し、等々につきて多少の詳話がなかつた事は、最も淋しい氣持であつた。

次に、之は私が茶話會の時でも述べたのであるが、民間人の官吏批判が聞きたい。官吏獨善と言ふ事が今日常識で

ある。何處が獨善か、其の原因は何か、私達は幸にして、官吏たる又官吏たりし方々よりの反省の言を聞いた。然し、裁判は對審裁判でなければならぬ、更に民間の人々の獨善に對する考をそのまゝ請入れ、反省批判して行く事は我々をして一層正しい官吏生活を送らしてくれる重要なモメントではなからうか。

(四)、以上、拙い感想をまとめました。唯思ひついた事を多少順序を立て、書いたのにすぎませんが……。今後の會に参考にでもなれば幸です。

一週間もの間、我々を指導して下さつた志田先生に厚く御禮申上げますと共に、種々重要な諸問題を與へられ體驗を得る事を得せしめられた此の會開催に御盡力下さつた協會の方々に、衷心より感謝の念を捧げます。

今後此の體驗を生かし、且つ與へられた諸問題と眞面目に、眞劍にとつ組んで行き度いと思ひます。皆様の御健康を祈りつゝ筆を擱きます。

感想 其十八

日本文化協會主催の、第一回吏道修鍊講習會を回顧する時、先づ感謝の念の心中より湧くのを感じるのである。靜寂なる環境、關係者の努力、講師の熱と愛、規律ある日課等が相俟つて、一日と我等の感激は高められていつた。

最初の夜は「これは『格子なき牢獄』だ」と冗談が出たのであつたが、最終夜の感想發表の時の一同の言が之を證明

してゐる。

將來、國家の幹部たるべき使命をもつ我々が、一週間行動を共にして相互の親睦を圖り得たことは、殊にそれが巢立つ以前、いはゞ自由な心境の時である丈に、最大の喜びであつた。これによつて今後互に啓發するの機會を持つこととなるべく、他方無用の警戒摩擦を抹消することを得るであらう。

日々の規則正しい生活は我々に過去の自己の生活を深く反省せしめた。未明に起床して、清掃作業、國旗掲揚、宮城遙拜、神殿參拜、體操の後清々しい氣持をもつて朝食の卓前に坐する如きことは、我々の絶えて經驗しなかつたことである。人は同一環境に久しくある時は、兎角眠り勝ちである。この度の共同生活に於て、我々は未來に對する展望と共に、過去に對する檢討の機會を與へられたのであつた。

諸講師の御講演については、感銘を覺えたのもあり、右耳から左耳に通り抜けた儘のものもあるが、これらを通じて最も刺戟を與へられたのは、指導者たる志田氏との座談會であつた。即ち、從來「偏狹だ」とか「學問的でない」とかの一言で片付けられてゐた「日本的なるもの」に對して新たな眼を開かしめられた。固より、氏の説く所は全部的には理解できず、又それ自體完結せる體系ではないが、併し「日本的なるもの」の探究に志すべきことを深く自覺せしめられたのであつた。

少數の者を除いて坐禪は我々の大多數にとつては最初の經驗であつた。始め、僅かの期待と、そして多くの危惧の念を抱いてゐたのであつたが、一時間の靜座を終へて無言の裡に靜修室を出でて寄宿舎に向ふ途次、天空に冴ゆる星影を仰いだ時は、心中に精進の喜びが湧くのを感じた。僅か六日の坐禪で確かな物を掴んだと斷言は出來ない。然し

ながら、遠い先にはあるが或る大きな物のあることが感じられる。そしてそれを垣間見ることが得たとするならばやがて我々の中、求道心強き者は更にこの道を歩み続けるであらう。

二回、三回と續行さるべき本講習會の爲に、敢へて望蜀の言をなすことを許されよ。

(一)、前から望んだ時には、永い一週間ではあつたが、後にして願う時、その寧ろ短きに失したのを憾みとせざるを得ない。(經濟的考慮を論外とすれば)更に期間の延長が望ましい。漸く生活にも慣れ、自己檢討も行ひ、新たに親しくなつた同志等とも語り合ふ様になつたと思ふ時には別れを告げねばならぬことは、惜しみても餘りあることである。

(二)、講習會の建前上、我々に對してより高い水準にある人から、色々のものを教へ與へられる様にするには當然である。が、それと共に、我々の中から盛上る力に對して、同一水準に立つ我々同志の座談會を開くの機會を與へて欲しい。このことは、プログラムのつまつた一週間の短期間に於ては求むるのが無理であり、(一)と並行して行はるべきものであらう。

(三)、講師の人選に對する希望として、もつと若い人、更に民間人をも入れる様にしてもらひたい。例へば、官僚の先輩の御好意から出た諸注意がある。その中で皆一樣に「官僚獨善」を誡められてをられる。我々は善意からして尙、不知不識の中に獨善に陥ることもあり得るが、これに對し立場を變へた民間人の言を聞くことを得たならば、教へられる所多かるべしと思はれるのである。

吾人は、兼ねてから内閣の管轄下に、官吏再教育の何らかの機關が必要なのではないかと考へてゐるものである。

その様な機關の設置さるゝに至れば、更に大規模に、更に徹底的に行事を行ふことが出来るであらう。唯その曉には論題、講師等について自由な立場からの選擇が行はれ得るか否かは疑問である。日本文化協會なればこそ何物にも囚はれず、斯の如き事業を遂行し得るのかも知れない。

合宿中の歌一首

朝まだき我等掲げし日の御旗

今旭に映えて一入赤き

感想 其十九

今回の日本文化協會の吏道修練講習會の企てに對して、私は大賛成で率先參加致しました。私達は、長い間學校生活を送つて参りましたが、その間に學び得たことは、多くは専門的な學理乃至技術的問題でありまして——そして、それは大學が學理の探究應用を第一使命としてゐる關係上、已むを得ないかもしれませんが——日本國民として社會に出で、陛下の臣として官途に就くに當つて心得て置かなければならぬ根本精神、心構へと言つた様なものに就いては、殆んど學ぶ機會が無かつた様に感ぜられます、従つて、從來は、高文に合格して有頂點の中に學校を卒業し、そのまゝ官途に就くといふ譯で、その間にグツと引締める機會に乏しかつた様でした。私も、此の度幸ひにして高文の

行政科試験に合格致しまして、商工省に奉職致すことに決定しましたが、陛下の大御心をそのまゝ一億の民草に傳へるべき使命と責任とを考へると少からざる不安を覚えるのでした。尤も、父が協會の仕事をお手傳ひして居る關係から、時々話も聞き、又讀む機會も持ちましたが、その頃は未だ高文の準備中で、將來の方向も定まらず、兎角聞き放し、讀み放しに終ることが多かつたのであります。斯様な譯で、愈々役人になることに決まつた時、今度大陸に就職する一友人と、斯ふ言ふ修練の必要なることを論じ合つたこともありました。そこで冒頭に述べました如く、今回の講習には眞先に參加を希望致したのであります。

併し乍ら、最初頂いた通知書の内容では、何だか漠然としてゐて、一體どういふことをするのか判りせず、その效果に就いては多少の疑を懐いて居りました。併し、一週間の講習を終へて、過去の不安も全く消えて、本當に清々しい氣分になると共に、現下の内外共に切迫した非常時局下に於て、將來我國を事實上リードして行くべき私達の使命を思ふと、強い緊張感を覚えるのであります。又、今回私達が斯うして一週間生活を共にしたといふ尊い想ひ出が、將來私共が、各省に分屬した後には於て、職務上及び職務外の連絡に好結果を齎すものと考へると、その意義深きものあるを感ずるのであります。

次に、細目に就いて感想を述べて行かうと思ひます。

先づ第一に、早朝六時に起きて寮舎内外の清掃を行ひ、日出と共に皇居遙拜、國旗掲揚、神社參拜を行ふ此の朝の日課の中に、此から一日の生活が始まるのだといふ潑刺たる氣分を喚び起させ、言ふに言はれない愉悅と快い緊張を感じるのでした。數年來朝禮といふことをしたことの無い私にとつては、何か敬虔な感じに打たれるのでした。

次に、諸先生の御講義に就いて述べれば、先づ星野先生の御話を拜聴して、我が國體の尊さを再認識すると共に、我が國體及び祖宗の靈に對して陛下の御奉仕遊ばされる有難さを伺つて、誠に畏れ多い、勿體ないといふ感じを強くし、御鴻徳の厚きを拜察し奉ることが出来たのであります。更に最終日には長く今上陛下の侍従として御側近く奉仕遊ばされた木下先生から、一億の民草を常に御思ひ遊ばす畏さを洩れ承り、感激の餘り目頭の熱くなるのを覺えました。殊に、その切々と迫り来る先生の一言一句は私の心銘に徹する感じが致しました。

紀平先生の日本精神講話、橋田文相の科學する心の御話は、耳に不慣れた爲理解し難い點もありましたが、その間に流れてゐる御趣旨は把握することが出来たと思ひます。兩先生には有名な著書も數多くありますので、折を見て讀んでみたいと思つて居ります。併し、今度の講習で先生の直接の御聲を聞くことが出来たことは、後で著書を拜見する時に大いに理解の手助けになることと思つて居ります。

平出大佐の國際情勢に關する御話は、現實的な而も切迫せる問題であり、殊に、國際政治に就いて深い關心を持つ私にとつては、最も興味深く感ずると共に、愈々日米破局に逢着した場合「大いにやらなければならぬのだ」といふ決意を固めさせられました。實際、私の考へてゐた以上に逼迫せる事態を知つてグツと胸にこたへるものがありました。その晩の奥村書記官の新體制に關する御話も、時代の尖端に立つてリードして行く若き官僚の潑刺さに、フーラーシャツを燃え立たしめられた感じが致します。唯々先生が過去の自由主義時代の政治家、學者、政黨等を口を極めて非難攻撃してゐた點に就いては少し異論があります。先生の非難攻撃は時代的背景を見落してゐるやうに感じられました。歴史を論ずる場合、その時代々々の社會的背景を考慮に容れないことは議論が宙に浮く感じが致します。

す。過去の人達に過誤もありませうが、その當時に於てはさうせざるを得なかつた事情もあつたらうと考へられます。沼田少將の總力戰に關する御話は、正直の所物足りなかつた感じがしました。もう少し突込んだ所を御聴きしたかつたのですが、併し、それは兎も角として、少將の御人格には深く惹きつけられ、他日御暇の折に親しく御話を御伺ひ致したいと思つて居ります。

狭間次官、香坂前東京府知事、吉田前厚生大臣、潮樞密顧問官、近藤教學局指導部長の御話は何れも長き官吏生活の尊き御經驗より官吏の道を御教示されたもので、すべて今後將來私共の則るべき基準として心に銘じておくべき事柄であり、官途に就く最初から斯うした官界の大先輩の御話を承ることの出来た私達は非常に幸福でした。唯々希望としては、此等の方々には殆んどすべて内務省系統の方でありましたが、産業省に奉職する私と致しましては、此の方面の先輩の御話や財界及農村代表者の官吏に對する要望、と言つた様なものも御聴きしたかつたと思ひます。

坐禪に就いては全く初めてのことで、禪に關する知識は全然なく、奥野道師から色々結構な御話を承り、漸くそのアウトラインが漠然と分つて來たやうな氣もしましたが、結局は、我が身の至らざる爲形式禪に終つて了ひ、その精神に迄没收することは出来ませんでした。警策に打たれることを氣にかける様な私達多くの者の禪は未だ禪の第一歩にも踏み込んでゐない感じがしました。併し、奥野道師の言はるる「情氣は情氣を生じ、生氣は生氣を生ず、五十人の吐く息が一つになるのが理想であり共同生活への基礎づけであります」と言ふ御言葉は力強く私の胸を打ちました。私達の修練に、奥野道師のやうなインテリ僧を師と仰ぐことの出来たことは、唯の禪僧とは違つて非常によかつたと思ひます。

尙又、二度の座談會の席上で松谷先生の御話されたことは、實際いゝことを仰云ると感心致すと共に、學校教育の不完全さと人格修養の重要性を痛感致したのであります。更に、石田前警視總監が二度も私達の座談會の聴き役を買つて出られ、私達に簡單乍ら示唆深き御教へを賜り感謝致して居ります。

志田先生の御話は一度御聴き致しましたが、他の二回の御講義は學校の都合で御聴き出来ませんでしたのでその思想の一端に觸れた程度でありますから、申述べることを差控へようと思ひます。併し、講習期間中を通じて御親切に私達を御指導下さつたことに對して厚く御禮申上げます。

要するに、今回の日本文化協會の計畫は、快心のヒットとも申すべく、私達愛講者一同感激して感謝の念で一杯であります、次回にも私達の仲間のために切角御骨折り下さることを御願ひ致すと共に、將來に於ては斯ういふ講習を民間に迄擴充され、官民一體、國防國家建設に邁進するための良き基礎づけたらしむることを希望致して此の拙い感想文の結びと致します。

感想 其二十

光輝ある紀元二六〇〇年も將に終らんとし、對内的にも對外的にも未曾有の重大時局に當面せる情勢のまま新しき二六〇一年を迎へんとしてゐる。この歴史に特筆さるべき年に、私は僥倖にも高等試験行政科合格者の末席を汚す事を

得、更に、銓衡試験の結果戦時經濟の中樞たる商工省へ採用と内定し、愈々明春東大卒業後官吏としてのスタートを切る事となつた。多年憧憬の的たりし官吏として、實社會への第一歩を踏み出すと思ふと、私の心には云ひしれぬ喜びと共に、斯様な重大時局下に於て、陛下の大御心を奉體して、人民を指導してゆく者の、責務の重大なるを痛感する次第である。今や、多年國民の指導啓發にあたりし政黨は潔よく解消し、黨利に捉はれる事なく、一致して翼賛の實を擧げんとしてゐる。この際、政黨に代りて國民の指導者として現れたのは官吏である。殊に、最近經濟新體制案の樹立と共に、從來の彌縫的なる統制經濟は、高度國防國家體制の確立の要請に應じて、全面的なる計畫經濟の段階に入り、官吏の指導の下に國民が一致して臣道實踐の誠をつくし、經濟の運営に當らねばならなくなつた。従つて、政黨華かなりし當時の官吏の如き無爲怠惰で、萬事事なかれ主義で、年月の経過と共に累進してゆく事は、今後の官吏には悉らく許されぬ事であらう。されば、第二次近衛内閣は成立の當初に於て、國防國家體制の確立、議會翼賛體制の確立等の重大なる國策と相並んで、行政機構の改革、吏道の振肅といふ國策を標榜してゐる。又、今日位官吏が國民の面前に大きく寫し出されてゐる。時代はないであらう。官僚獨善なる忌むべき言葉を以て、革新官僚群を攻撃する財界人の如何に多き事か。さればこそ、政府が文官任用令、高等試験令、文官分限令の改正案を樞密院に提出して、その審議を仰いでゐる所以である。私も斯様な情勢の下に於て、官吏として出發せんとする者である以上、固より從來の官吏が持つてゐた通弊に陥る事なく、大いなる實踐の意欲を以て事にあたらうと決意を固めてゐる。が單に一個人として考へただけでは駄目であるから、現在各省に於て活躍せられる諸先輩の御指導を得たいとかねてから念願してゐた。幸ひに、日本文化協會の御主催の下に、本年度の高文合格者に對する講習があるといふ商工省秘書課か

らの御通知に接し、先づ第一に志願致したる次第である。

徹底的に私の精神肉體を鍛錬して頂ける事と期待しながら、十五日の午後一時に養正館に集つた。講習員の名簿及び日課時限の印刷物を渡され、講師諸先生が何れも現代日本を代表する一流の方々である事を知り、これら諸先生の警咳に親しく接し、その該博なる知識と體驗とを我々に與へられるのだと思ふと、私は大學の講義に於て求めて得られなかつた官吏として服膺すべき精神がはつきりと把握される事と信じた。從來、私達が小學校以來十數年の長きに亘る學生々活に於て得た事は、自我の主張といふ事であつた。小學校卒業するとすぐ中等學校の入學試験があり、更に試験々々となつねに競争を強ひられた。従つて、我々の心の中には自己を主張する氣持のみ強く、進んで社會のために國家のために自己の一身を捧げるといふ尊い精神が殆ど缺乏してゐる。誤れる自由主義、個人主義の思想がなほ根強く國民一般の中に彌漫してゐる。この思想を根柢から覆すのが新體制確立の根本であると思ふ。殊に官僚は國民の指導者となる者であり、その一舉手一投足が國民に深刻なる影響を與へるのであるから、徒に從來の如く權限争ひ繩張り争ひをしてゐては、到底官界の新體制は確立されぬと共に、國民に公益優先、國家への奉仕の觀念を植付けける事も不可能である。私は、この講習會で、從來私の心に蟠つてゐた利己心を完全に滅却せしめて頂きたいと念願してゐた。この私の念願は先づ第一に九時から十時までの坐禪に依つて満たされた。五十人の者が一室に集り、靜坐して己れの煩惱を拂ひのけ、誠をつくす事に依つて全體が一つの呼吸になり、一つの心になるといふ。その中一人でも心の中に煩惱を懐いてゐれば、それは五十人全體の心の中に浸み透る、自分一人は如何なる考を懐き如何なる態度でゐても、他人には影響はないといふ氣持がすつかり消えうせねば坐禪の意味はないといふ奥野先生の御言葉をきき、私は

ひそかに坐禪こそは我々の心にある功名心、利己心、私利私欲の一切を拂拭してくれるものであると痛感した。しかも、坐禪に依りて何物か體得しようといふ氣持、之がすでに利己主義であり功利主義であるといふ、全く我を忘れただ只管己れの敬虔なる誠をつくす事があるのみといはれる、この氣持この精神を、官吏といはず國民全體が抱いたならば、今日の如き官民の對立、官廳相互の繩張り、闇取引の横行等の戰時下の日本國民として恥づべき行爲は出来ぬ筈だ、との感を深くしたのである。

今回の講習會の結果、私の胸中を往來する感想は色々にあるが、何よりも私が打たれたのは、第一日の星野先生及び最終日の木下先生の如き、宮中にあつて、天皇陛下の御傍近く奉仕する方から、陛下が現つ御神として天照大神の御血統を繼ぎ給ひて、國內を御統治遊ばすにつき、如何に御敬神の念が厚く、又我等民草の上を思召めされてゐるかといふ事であつた。十一月末の寒い冬の夜、宮中に於てとり行はせられる新嘗祭の御儀式の模様を拜聴した時や、大演習の御歸途、鹿兒島港を御出港後、薄暮の中に一人艦上に御出ましになり沿岸の民草の熱誠こめての奉迎にお答へ遊ばされてゐる。陛下の御姿を目近に拜した木下先生の御謹話をきいた時、日本國民として誰一人感涙に咽ばぬものがあらうか。斯くも宏大無邊の聖慮を我等國民に垂れさせ給ふ事を拜聴し、しかもこの大御心を奉じてその御統治に輔翼し奉るべき官吏は、一般國民以上の忠誠の念を以て大御心をあやまちなく國民に傳へるべき重大なる責務があると痛感した。自己に與へられたる權力は畏れ多くも上御一人のものであり、自己の行ふ行政は上御一人の御統治の一端となるものであると思つた時、どうして國民に對して横暴な態度を採つたり、國民を苦痛に陥るが如き行政を行ふ事が出来ようか。私は官吏としてスタートする事に對して無上の光榮を感じるに到つた。

講師の諸先生は、或は官吏たるの覺悟につき、或は現下我國の當面せる國際情勢につき、或は近代戰の特色たる總力戰につき、國防國家の意義につき、新政治體制の發生の必然性につき、我等に懇切叮嚀に話され、啓蒙されたが、私はそれらの話を通じて、眞に我が日本が、現在殆ど有史未曾有の重大なる危機に當面してゐる事がはつきりと認識された。又、日獨伊三國同盟條約の締結と日支間の基本條約の締結により、我國の進路がはつきりと確立されたのだといふ事が認識された。今まで我等に斯様な認識が缺如してゐたわけではない。併し、我が國の領土は開闢以來一度も他民族の蹂躪に委ねられた事なく、最近の英京倫敦、或は重慶の如く空襲の慘禍に見舞はれたる事も一度もない。従つて、我が國民には我が國土は不可侵なのであるといふ自負の念がある、と共にこの自負心に依頼してゐる傾向がある。これが昨年まで戰地から歸還した將兵をして目をそむけしめるが如き華美な服裝の流行となり、奢侈品・贅澤品に對する需要増大となり、買溜め、賣惜しみ等の闇取引の横行となつてあらはれたのであらうと思ふ。併しながら、我等は今や斯様な自負心に依頼する事は許されない。新體制運動が圓滑に進行し、高度國防國家體制が確立されると否、とに我が國の興廢がかかつてゐるといふ奥村先生の言は、我等の肺腑をえぐるものがあつた。同盟國ばかりあてにして滅亡したよい例は、最近のフランスである。自國の自力で國力の充實を計らねばならぬ。東亞新秩序の建設、更に進んで大東亞共榮圈が確立される爲めには、一億國民が臥薪嘗膽してもこの理想實現に邁進せねばならぬ事があきらかにされた、この複雑きはまりなき情勢の下に於て、我が日本の國是を定め、國力の充實のために諸政策を實行して行くべき官吏の責任は、きはめて重大であると共に、これ位働き甲斐のある時代に生れて來た事を喜ぶべきであると感じた。

吏道の振肅、官界新體制の確立といふ事についても、政府では種々立案中であるといふ。併し官吏制度改革の勅令案も目下樞密院で審議中であり、公表されず、具體的方策は未だ明示されてゐない。私は高文に合格した時から、將來官吏として第一線に立つべき我等は常住坐臥如何なる心構へを持つべきか、役所で事務を採る際には何を念頭に置いたらよいかといふ様な點につき、煩悶し、先輩にもたづねたが、充分な解答に接しえず、多少不安の念にかられてゐた。俺はこんな氣持で明春から官廳に入つてうまく仕事が出来てあらうか、といふ點につき憂慮してゐた。併しこの不安疑問等は今回の講習會の結果完全に一掃され、何んとなく體内に清新の氣が漲り、自信の氣が満ち、來春卒業したら大いにやるぞといふ意氣が勃然として湧き起つた。潮、香坂、狹間、吉田等の官吏の大先輩といふべき諸先生の口から直接に、その何十年に亘る官吏生活から得られた貴重な體験談をお聞きする事が出來て、始めて官吏といふものの概念が會得された様な氣がした。之又今回の講習會の大なる收穫の一つであつた。

私の感想は大體以上の如くであるが、最後に次回以後の人々の御参考にも一つ二つ希望を申述べてさせて頂きたい。それは、我等は精神的に大いに鍛へられたが、肉體的にもつと鍛へて頂きたいといふ事である。朝食前に行はるる掃除した後の體操はあれではなまぬるい、もつと激しい運動をしてもよからうと思ふ。運動場の周圍を三周駈足すれば相當身體も温まるし、一舉兩得かと思ふ。次に、講習員同志の討論會を一回位開催せられてもよいのではないかと思ふ。お互ひに眞剣に日頃の蘊蓄を傾けて種々の問題を議論しあふ事がきはめて必要であると思ふ。その際に出來れば各省の課長級位の中堅官吏を招待してその人を中心にして、種々質問するなり議論するなりすれば一層効果的であると思ふ。

終りに臨み、終始懇切に我等講習員の指導をされた原子理事、志田・立花の兩先生に厚く御禮申上げると共に、この一週間の講習會で得た貴重なる體驗を將來の官吏生活に於て生かして行きたいと考へて居ります。

感想 其二十一

陛下の官吏として、新しき歴史の建設に精進すべき此の身の責任の重大なるを痛感致しますと同時に、多難な時代に働くべき使命を享けた自己の、明日の生活への心底よりの幸福なる緊張を覺えました。

感想 其二十二

謹啓 次第に寒さも加はつて参りました。小生、第一回吏道修練講習會に参加を許可せられ、一週間この上なき貴重な體驗と教訓を得、非常に感謝してゐる次第でございます。厚く御禮申上ます。扱て、講習會に關する感想を記して送れとの事でございますから、簡単に一二記します。

私の感想を一言にせよと言はれますならば、非常に良い講習であつたとの感謝の念と共に、いかなる實を結ぶかは只管今後の事、今後の努力に屬すると言ふ事です。即ち、今度の講習により出發點、少くともある刺戟たる契機が與へられると痛感します。その一は、日本精神の問題に關してであります。日本精神、八紘一宇と言ふ一聯の言葉に對する觀點に、ある變化が與へられたと思ひます。之は先づ、星野氏の御神勅の解釋より出發し、特に志田先生に負ふ所が大であります。日本精神の明確なる把握の必要なる事は、言ふを待ちません。それには、自らの中に生き、底に流れる傳統に想を致す事でありませう。同時に、それは單なる排他的自己陶醉又は學問的批判を許さざる神話的傳統への信仰強制であつてはならぬ事勿論です。かゝる立場に立つて、日本精神の普遍性と言ふ問題を適確に把握する事が第一義の要請であります。眞に所謂日本精神が光被しうるか、八紘一宇なる旗幟がいかにして帝國主義的口實と區別されるか、又いかなる性質の武力との結合が許されるか、之等から考へて行きますと、それは 天皇陛下に凡て歸する所に明確なる意義が啓示されます。それは大御心に由來する道義性であります。二千六百年の歴史はその客觀的存在を語ると共に、今後の我々の責務の大を感ぜしめます。復古は常に維新である。即ち、過去に規定されつゝ、未來に自由なる展開をなす、自然に結合した我が國であります。かゝる事を考へつゝゐる時、殊更感激と幸福を覺えます事は、本講習會にて御側近の方より 天皇陛下の御事蹟の一端を拜承しえた事です。我は日本人なり、との感激を一層強められた事でした。一人でも多く、かゝる御話は御傳へしたいと思ひます。日本精神の具體的解明、且小さくとまる事なしに、更に深き探究、之等こそ希望ですが、その契機を今度の講習で與へられたと思ひます。

常々、道義性、倫理性が貫いてゐなければ凡て良き事なしと思つてゐますが、本講習會に於ける諸講演を聞くにつけても、その感を深くしました。尙諸大先輩の御教訓は、何れも有益であり、又打たれました。唯、今の所、教訓で

頭が飽和状態であるとも言へます。故に之も今後の実践にあつての指導力如何に自ら期すべきであります。然し、人格的餘韻は必ずや生々とする事でせう。

又、大きな期待をもつてゐた一つは、行的訓練でした。規則正しい團體生活の効果です。殊に印象深いのは、靜修室の寒夜共に行じ、共に警策を戴いた坐禪であります。東洋的精神の特性は、正に直觀的に真相に突入する體驗でありませう。そして、己をつくし己を把握する。かゝる思想への關心を短時間とは言へ與へられました。奥野先生の熾烈なる氣魄も忘れ得ぬでせう。又、警策には最も共鳴しました。そしていかに之を生かすかも今後の課題に外なりません。

今一つ期待をもつて來た事は、時勢の動きとも言ふべきものに對するより適格なる把握です。講師の選擇もこの點には重點がおかれてゐなかつたのかも知れませんが、又、自明とも考へられたのかも知れません。「道は一つ」ですから。然し、なほより明確なる把握を自らは望んでゐます。

最後に、團體生活の効果中、最も大なるもの一である交友とも言ふべきものです。大局的見地に立つ和とも言ふべきものです。この効果の大成は特別今後の對策努力の如何による事大と感じます。

極めて簡單平凡ですが、大體右の感想を記します。今後大いに努力して御協會の御厚恩に報ひんと思ひます。重ねて感謝の意を記します。

感想 其二十三

約一週間の講習會を終り、平素の生活に復つて見て、この講習會を回顧して見ると、あらゆる意味に於て自分に與へた影響の大きいのに今更乍ら驚きます。

始め之に参加するに當つては、僅か一週間位の講習が果してどれ程の効果があるかと思つて居りました。然し、現在、この一週間の生活は決して無駄でなかつたばかりでなく、我々のこれからの將來に非常に大きな能動的な作用をなすに違ひないといふことを心から確信するに至りました。

我々は多く現在まで多かれ少なかれ、自由主義的な教育を受けて來、生活態度に於ても所謂高校流の不羈奔放、動もするとルーズに流れ勝ちでありました。時には常識の埒外に出で、ハメを外してエクセントリックな行動をするとも少くなかつたのですが、この講習會が規則正しい行的生活によつて、之に或る求心的な粹を與へて呉れ、精神的にはとすれば目的、希望を失つて虚無的ならんとする我々に、或る實踐的な積極的な意欲を呼び醒して呉れたことは、我々に取つて誠に有難いことでもあります。

加之、我々將來官吏たらんとするものに取つて最も重要なことはこの變轉して止まない世相に處して誤らざる或る信念を胸中深く藏することでありますが、これがこの講習會に於て與へられたことは實に望外の喜びでありました。

それといふのは、官吏たるものは己を去り私を滅して上御一人の大御心を體して行政事務を行つて行かねばならぬことは、何人といへどもよく知悉する所であり、我々將來官吏たらんとするものは勿論この覺悟を持つて居たのでありますが、何が故にかくせねばならぬかといふ點については遺憾乍ら甚だ茫漠として居て、これについて確乎たる信念を持つことが出来なかつたのであります。從來の學校教育に於て之が與へられなかつたことは久しい。或は徒に忠君と云ひ愛國といふのみであつて、我々の心の中にこの信念を吹き込み、それによつて我々をして積極的に或る意欲を起さしめるといふようなものは嘗つてなかつたのであります。

それが、この講習會によつて實に明確に與へられたことは、誠に有難いことであり、私に取つては實に望外の倖でありました。

從來、肇國の精神と云ひ惟神の道と云ふも、現在の狀勢を説明することは嘗つてなされたことはないように思ひます。或は八紘一字といふも、やはり同様に一種の掛け聲としか思はれなかつた。國體の尊嚴といふことについても、その尊嚴なることは充分に分つて居たのみにて、何が故にそうであるかといふことについては、直感であるとか本能であるとか、唯沒理性的にそうであるとしか思へなかつたのであります。

然し乍ら現在の心境は既に違ひます。從來、國家について或る絶對的なものは、支那に於ても亦西洋に於ても屢々考へられた。或は道義國家といひ、或は明德を立つるといひ、或は天命によつて政を行ふといふのがこれでありました。これ等が宇宙の根本原理であり、之によつて政治は行はるべきものとされて居たのであります。かゝる超現實的な理想はいづれも一片の空想に過ぎず、いづれの時代、いづれの國家に於ても嘗つて完全に行はれたことはなかつ

たのであります。

萬邦無比の我が國の國體について見れば、これは全然異なる。我が國は、萬世一系の天皇が皇祖の神勅を奉じて永遠に之を統治し給ふものであり、この萬古不易の國體に基いて家族的協同國家として忠孝の美德を發揮するものである。我が國永遠の大本は、かの天命といふような超現實的な理念と異り、實に皇祖の下し給つた諸々の神勅によつて明確に示されて居るものであり、この點に於てそれは一片の空想と異り、飽くまでも現實にその基礎を置くものであり、それによつて我々祖先の血脈を通じて過去・現在・未來を通じて躍動して止まない傳統的精神を培つて居るものである。これが我が國の肇國の精神であり、惟神の道であります。これが肇國以來三千年の歴史的事實に於て見事に實現されてゐる點に於て、我が國の國體の尊嚴が燦然として光芒を放つて居る所以であります。すなはち、肇國の精神と之に加ふるに三千年に亙る歴史的事實、この兩つのものが渾然と融合されて居るが故に我が國の國體が萬古不易なることを實證し得るのであります。八紘を一字となし、世界萬邦をして各々その所を得しむるとは、我が國の如く理想と現實、兩つながら完全に備はつて居る國柄にして始めて言ひ得るのであると思ひます。端的に云へば、三千年の仁政が之を證明して餘あり、この故にこそ世界新秩序、大東亞共榮圈を提唱し得るのであり、その資格に客觀性を添へ得るのであります。

以上の如き信念を我々が持ち得るならば、國家の官吏として、この變動して止まない國際狀勢、國內事情に處して立派に奉公の誠を盡し得、何物にも惑はされる虞はないと信ずる次第であります。

信念なきものは弱い。信念を持つものは死をも恐れないものであります。

近き將來に於て官吏たらんとする自分にこの信念が與へられたことは實に心強い限りであり、何とも御禮の申し上げようもない程です。

更に亦、この外に、講師の人々、即ち官界の先輩から種々有益なる官吏としてこの心構を教へられたことも實に得難い教訓でありました。

一週間の合宿生活に於て、萬事強制的でなく、我々をして自ら進んで行動するやうに懇切なる御指導を賜りたる諸先生の御配慮に對して厚く御禮申し上げます。

感想 其二十四

新らしい世界觀を確立しなければならぬ。最早從來の様な考へ方では今後何も出来ないことを知つた。根本的に世界觀をあらためて行かなければならぬと思ふ。もとより時勢の變遷を眺めて、自分の從來の考へ方が今後の社會に容れられないことは意識してゐた。さてそれではどう改めるかとなると、矢張り舊來の思想によつてすべてを批判しようとしてゐた。それは他に據るべきものを持つてゐなかつたからである。此の講習中にその答解を求めたのであつたが、何等把握するところがなかつた。然し進んで探求する直接の動機を與へられたことを喜ぶ。世界觀なき者に信念は存しない。信念なくして何が出來よう。信念を以て仕事をしたい。私は從來の世界觀を改める必要を痛切に感

ずる。新らしい自分の據るべき思想を求めたいと思ふ。

此の講習中に於て、所謂國文學者に接することが出來たのだが、私は自分が從來彼等に對して漠然と抱いてゐた期待の總てを失つた様に思ふ。簡單に直觀で批評する失禮を許してくれるなら、彼等は交際にくい人種であるの一語に盡きる。彼等は現實の社會に對して全く無智である。彼等の様な考へ方では到底時代を指導することは及びもつかない。私は寧ろ此の講習會が文部省の人達に依つて指導されたことを甚だ残念に思ふ。

初めて接した禪に對して大きな魅力を抱いた。理論のない禪に眞に深い理論が存する様に思ふ。機會を得て再び奥野禪師の教へを仰ぎたいと思ふ。

感想 其二十五

拓務省より文化協會主催にかゝる吏道修鍊講習會に参加せよとの勧告に接し、直ちに應募した所、第一回期の出講を許されて一週間の規律ある團體生活を無事有効に終了し得たが、今講習に就いて所感の一端を簡明に略述せん。

(一)、先づ第一の收穫は、國體觀念を明確に把握し、官吏として進むべき道に對し、光明を與へられた事である。私は從來具體的普遍性に就いて研究し、日本的なるものゝ建設を唱導してゐた。

抽象的な個人主義觀や全體主義觀は、相對的立場にあるものとして排し、具體的にものごとを把握し、それを生

存體として各々其の所を得せしめ、天皇を中心に戴きて、普遍的大生命として生成發展する姿にこそ日本の特質を見出してゐたのであつた。而して、かゝる理念の上に理論構成を計り、萬般に渡る日本的なるものを建設すべく精進したのであつた。然るに、今回の講習會に於て、種々なる講演を聞きつゝ靜かに考察するとき、此の理論に對し一大修正の要求に迫られざるを得なかつた。勿論、其の基本的な考へ方には變化は無いが、それを具現すべき方法に於て、正當ならざりしを明瞭に認識せざるを得なかつた。自分は常に日本的なるものを叫びつゝ、尙外國思想の捕虜たらざるを得なかつたのである。外國思想より起る諸弊害を除去するの道は只日本思想の把握と其の培養強化にありと叫びつゝ、反面外國思想の弊害に陥りしを意識し得なかつたのである。外國思想を批判し、日本的なるものを建設するに當り、日本的指導理念を考慮に容れざるが如き矛盾に始めて氣が附いた。やはり自分には日本精神の眞髓が理解されてゐなかつたのだ。一週間の講習會に於て、眞に日本的なるものを建設するに當り、其の中樞を與へられ、努力すべき方向が明示された事は、自分にとりては最大の喜びである。一週間の講習は、眞に私を日本人たらしめたのである。

(二)、次に私は何事につけても功利的、排他的、自由主義的なるものを排し、協同體的、皇國的なる觀念の下に生きる事を信条としてゐた。即ち、協同體的皇國民としての自覺の下に、明るく、正しく、清く生活し、人間らしい自己を、眞の人間自體としての自己たらしめるべく修養して來た。

其の結果、人間の常道を歩める様に思つてゐたが、講習會に参加してみると、まだく、私の強さを自認せざるを得なかつた。私の固執こそ個人主義的自由主義の出發點だ。個人主義的なるものを排しつゝ、反對に個人主義的な

りし自己を明確に見出さざるを得なかつた。講習中、總ての先生方が言はれる事は「我を去れ」「己を虚しうせよ」と言ふ事であつた。滅私こそ官吏が生きる可き緊要事であり、之が又日本人の生きるべき常道だ。日本人としての官吏は只聖旨を奉戴し、陛下の赤子たる國民に傳へ、義は君臣にして情は父子の特質を持つ我が國を、普遍的な大生命たらしめる事に精進すべきである事を教へられ、誠に感激に堪へなかつた。肇國の理想たる八紘一字の精神を限り無く發揚せしめる事こそ、我が國民の努めであり、現今の如き國家體制に於ては、此の事は特に強く官吏に要求されねばならない。今後益々我を滅して眞の人間として、而も特に官吏として生き、再び矛盾を繰り返さざらん事を誓つた次第だ。又以上は講義に於て理窟で理解されたものだが、理論や言葉では「虚己」の本質は把握出來ないものだ。内在的な強き力により、無意識の裡に「我」が滅却されて始めて「自」は生き生成發展への要素となり得るものである。而して、此の點は毎日一時間づつ行はれたる坐禪に於て修鍊せしめられた事は、誠に有意義であつた。己を虚うして無我の境、空の裡に生き、一度自己を滅却して人間の本来の姿が把握され、生死一如の世界は斯くして生れ、不可避的、必然的、本質的なるものに答へ得る禪の道こそ、最も有效適切に「虚己」の道向を實踐せしめるものたる事を感じしめた。前者の理窟に加へ、此の實踐の姿が在つて始めて知行一如の實も示されるのである。一生を通じて忘れ得ないものは、此の行的鍊鍛である事は信じて疑はない。

(三)、次に、近代戰爭形態の特質、國家、民族、國防の本質より見て如何に國防國家體制の必要であるかを痛感せしめられ、此の整備に於て、新舊、兩政治理念が如何に根強い闘を繰り返すものであるか、又國防國家建設に對する官吏の責任の重大性等につき、緊迫せる國際情勢等と照應せしめつゝ説きさとされた時、一命を投げ捨て、萬難を

克服せんとの決意を益々堅固ならしめられた。特に、木下先生より 聖上陛下の御徳を拜聴せし時の如き、皇國に生を享けた喜びに湧出する涙を如何ともなし得なかつた。天皇陛下の御爲なら如何なる時と雖も一命を打ち込む喜びを心より感じたのであつた。自分の官吏生活の全部は「忠」のみであらせしめん事を心より誓う。

(四)、日常生活に於ては、僅か一週間の裡に腹藏なく語り得る友人を持ち得た事は此の上もなく楽しい。而も五十名の者が、何ら飾る事無くありのまゝに自己を露け出し、誠の世界に魂と魂との融合を計り得たのは大なる收穫であつた。斯くする事により官吏の呼吸は各省に於て、期せずして一致し、其の常道を誤り無く歩み、一體となりて聖旨を奉じて肇國の理想實現に巨歩を進めることが出来るのである。

(五)、以上の如く、今回の講習會は、先づ私に日本魂を打ち込んだ。而して理論により、國防國家體制に必要な諸知識を授けられ、國內、國際の諸情勢よりして官吏の責任の重大性を痛切に感ぜしめられた。而して、之が實踐は己を虚うして一すちに大君に仕へ奉る道を、行を通じて教へられた。之等により、私は日本人の官吏として各省同僚と共に萬難を排して、國是に生き得ることが出来るの確信を持つに至つたのである。而して、之等の効果は、自己の犠牲に於て公に奉じられる日本文化協會の御蔭である。日本文化協會に對する此の御恩は、只、私が、日本の官吏として 天皇に仕へ奉る事により始めて報いられることを確信して、今後益々修練の道を精進せん事を誓ふ次第である。

感想 其二十六

拜啓 先般は、第一回吏道修練講習會御主催下さいまして、御親切な御指導を給はり、深く感激致しております。就きましては、簡単に感想を述べさせて頂きまして、第二回、第三回の本講習會のより良き成果を祈り上げる次第であります。

本講習會の今日の社會的意義は、こゝで論ずる必要のない事柄と存じます。たゞ、私共明日の官僚たらんとする者として、此の講習會が、今年はじめての試みであり、今日の官界に對する世間の特殊な非難に多分に影響されたものである事は、認識の基礎となるべき事柄であると思ひます。今回の講習會は、我々の將來にとつての、良き第一歩となつた如く、見えますのも、今回の音頭をとつて下さつた諸先輩の御指導の賜であります。

今日、官僚は其の誠意について、其の心構へについて、そしてその技術について非難されております。そして、この狀勢のうちにあつて必しもその目指す效果の明確でない本講習會は、如何なる、どの程度の意義を持てば成功であるのか、先づ考へさせられる點であります。結論を申し上げます。同じ世代に生をうけ、同じ感覺を持つて、同じ官界といふ一定の職業社會に方針を定めた者共の第一回の顔合せ、將來、國家の直接事務を、全體的調和の内に處理せんが爲の、制度に依らずして、心と心による連絡の爲の下ごしらへの第一歩であればよいと思ひます。官廳事務の連

絡も、官廳と民間との有機的な結合の成立も、各人が屬する近代社會の、尨大な機構の内の一部署の一機關としてのみ、各人が動いたのでは不可能である。要は各人が、同じ人間といふ生き物である自覺に立つことであると思ひます。

今回の講習會の内容に立かへつて見ますと、講義もその爲め的手段となる意義が認められます。講義擔當の諸先輩に就きましたは、内務的な方面の官吏の先輩が相對的に多過ぎはしなかつたでせうか、仲々計畫上の御苦心は多くなると思ひますが、商工官吏の苦心談とか、民間の官僚觀とか伺ひたいと思ひました。

御講義の内容が全講義を通じ、觀點に於て固著したものが感ぜられ、觀方が平盤的になる傾向がなかつたでせうか。今日の政治があらゆる階層の總協力に依らなければならぬ、實際的方面からも、理念的方面からも、一つの事實、一つの行爲を、あらゆる視點から眺めて、その眞の姿を把握する事が必要と考へます。然し、今回の講習會に座談して内容的に融合する機會が少かつた事など考へるに至りますと、寧ろ、この講習會は之を徹底するならば、之を將來に引續けて、我々職務に従事して後も一定會合を行ふ事によつて、實效を擧げるべきものと思はれます。要するに、スタートの號砲に過ぎない、走るも走らないも、これから、といふ性質のものらしく思はれます。然し、そのスタートを未だ實務にたづさはらざる以前の今日に於て、行ふ事には實際上の大きな効果があるであらうと思ひます。問題の坐禪も、之を將來に續けるや否は各人の自由、坐禪といふものはこんな形のものといふ事を知つて置くのは必要でせう。時間の長さも適當、奥野師もすこぶる良い指導者を得たと思ひます。申し遅れましたが、講習指導員志田先生はじめ、諸先生もまことに良い指導者であつたと感謝致しております。

結論と致しまして、この講習會には餘り多くを期待して、形式的になるより、形式はこの講習會の性質上から要求せられる最少限度にとどめて、軽い氣持で、一方には自發的な、自然な點を失はぬ様、將來の爲の萌芽をのみ折らぬ事が必要であらうかと愚考致します。今回の講習會が成功であつたのも、指導の地位に立たれた方々のそうした御配慮があつたからであらうと考へるのであります。

此の講習會が契機となつて、やがて統一的行政の爲の人的結合の何らかの形式が生まれ、それが政府對民間の有機的結合の爲にまで發展する事を祈つております。

感想 其二十七

「講習會はどうだつた」と聞く人に對し、私は唯一言「非常に有意義だつた」と答へてゐる。閉講式の答辭中に「私達は一週間前の私達とは違ふ」と述べられたが、之は決してお座なりの言ではないと思ふ。少くとも、私は衷心より「然り」と答へるに躊躇しない。この意味で私は非常に感謝してゐる。

既に、茶話會の席上でも一言したが、私は精神科學といふ分野に足を踏み入れた事は無かつた。同時に、それが私を跋行的ならしめるものと痛感してゐた。従て、今度の講習會に於て伺ふ所のものは、正に私にとつては旱天の滋雨といつたものだつた。總てが深い思索へと導いてくれるものだつた。

「何か大きなものを掴みかけてゐる」これが現在の心境である。これさへ掴めば官吏として自信をもつて立つて行ける、そして、「きつと掴んでみせる」と確信し、又努めつゝある。

それが何であるかを未だ具體的に發表し得ない事を物足りなく思はれるかも知れぬ。然し、私にとつては餘りに唐突でもあり、又大きな課題でもある。未だ批判する程能力のない私は、講習會では唯凡てを素直に受入れてきたにすぎぬ。問題はこれからだと思つてゐる。

唯、私が求める所のものは、「國體觀念、或は日本精神を基礎とし、吏道を目的とした信念だ」といふ事は言ひ得る様に思はれる。

講義とか坐禪に付ては、既に茶話會に於て多くの人が述べられ、又私も大體同意見なので簡略する。

唯、私達は若い、これが一面懷疑的になると共に、他面感激し易い性質を有する。之に付て留意して欲しいと思ふ。徒らに理窟っぽい話や、自己の信仰を押付けるが如き講話に反感を懐くと同時に、一度分れば素直に受入れる。尤も、これは講師に對する言葉に過ぎぬ。

理窟もなく、而して盡きせぬ深味を有する所に、坐禪の魅力がある様に考へられる。最も興味のある體驗だつたと思ふ。今後出来れば続けたいとも考へてゐる。

將來、各省へ行く人々の親睦をはかるといふ所にも、今度の會の目的が存した様に思はれた。これに對し、私大生として些か書いて見たいと思ふ。

正直な所、最初の一日、二日は淋しかった。勿論、人數の關係上仕方がない。が然し大體帝大生は全部とは云はぬが取り付き難い。「官僚獨善宜なるかな」といふ氣がした。

協會の方では、私大生(東大以外の意味)は一名宛東大生の中へ混へて、成るべく廣く交際せしめようといふつもりらしく思はれたが、……。私なんか相當人懐つこいつもりだが、あれでは最初から心の武装をせずにはゐられなかつた。尤も、終りに近付くにつれて、交際してみれば變にすまし込んだ奴でも皆良い人だといふ事も分り、相當胸襟を開いて語り合つたが……。そして、物の考へ方、其の他に付非常に有益であつたし、又種々御世話になつた事を感謝してゐる。結果論的にはあれで良いと思ふが、慾を云へば、最初の夜に懇親會をやつて頂き度い。あれをやるどぐつとお互が接近するを覺える。又、餘り講義を續けず、同室の者だけで相語る機會を最初の方に設けて頂き度い。そして指導者の方からもこの點に注意を頂き度い。之は、一面官僚獨善打破といふ事にも効果がある様に思はれる。起床時間、國旗掲揚、神祠參拜、掃除或は明治神宮參拜、孰れも理窟抜きに有難かつた。張り切つた氣持で一週間を非常に有意義に過し得た事を重ねて深く感謝する。

最後に、國家未曾有の非常時局に際し、微力ながら全力を盡し、他面文化協會の御厚情に報ひん事を期してゐる。

感想 其二十八

講習中は、御懇切に御指導下さいまして、誠に有難く厚く御禮申し上げます。御約束の講習についての感想は、急遽

歸省の爲遅れまして申譯御座いませぬ。實際講習より得たものが案外に大きかつたので、未だ纏らぬ有様ですが一言述べて責を免れ度いと存じます。

要すれば、私にとりこの講習は非常に有意義であつた、との一言に盡きるのですが、何といふても、私の得た最大のもの、畏き大御心の程を、御傍近く奉仕する星野木下兩先生より洩れ承つた時の感激です。勿論、今迄此の種の事は幾度も承つた事ではありませんが、兩先生親しく御見聞なされし御事丈けに、一入その感激の深きを覺えました。語る者、聞く者すべて目をうるませ、身を固くし皇國に生を享けし身の幸を今更乍ら痛感した事でありました。私はこの瞬間の感激を忘れる事なく、官吏たる道を辿らうと考へて居ります。

而も、私はこの感激に加へて、私の世界觀、人生觀、歴史觀に對して、大きな課題を諸先生より與へられました。私の今迄の考へ方は、根本より變らうとして居ります。私はこの冬休中、靜かに色々考へねばならぬと考へて居ります。眞の日本人たる爲に、そして、陛下の忠實なる官吏たるが爲に、深き思索が要求せられて居ります。

かく、私にとり極めて有意義であつたにも不拘、物足りなく感じた點は、座談會の席上でも申上げた通り、講習員相互が話し合ふ機會の少かつた事です。私は、五十一名中半ばもその名を知らず、話し合ふ事なしに過してしまひました。行的生活により、動物我の征服と、神我への向上の必要なるは申すに及びませんが、更に、團體生活たる以上は、全我と全我との交渉し合ふ機會を多くせねばならん事は、いふ迄もないと存じます。實際、終末に近づくにつれ親密の度を加へたと申せ、同室の者を除いては尙袴を着て相對してゐる様な感を懐いたのは、私のみでしたせうか。この點次の會には御考慮下さる様御願申上げます。

兎もあれ、私にとりこの講習は、ある意味に於て更生の機會を與へてくれました。私は、此から一生懸命苦しまうと思つてをります。眞の日本人たらん事を期しつゝ、擱筆致します。末筆乍ら協會の御繁榮を御祈り致します。亂筆御判讀下さい。

感想 其二十九

(一)、日本文化協會主催のこの講習會は、非常に有意義であり、且又愉快で、得る所多大であつた。一週間は何の苦勞もなく、本當に夢の様過ぎた。先づ主催者である日本文化協會、並に親しく寢食を共にして指導して下さつた志田先生初め諸先生に深く感謝する次第である。お蔭で私は種々の有難い體驗を味つた。就職決定以來、ともすればふしだらな無爲に流れた私の生活は、こゝで又新しい活を入れられた。龍頭蛇尾に終らうとした、光輝ある二六〇〇年に於ける、私の生活も、これで有終の美を全うした觀があり、それは又十八年に亘る學校生活の總仕上げともなるであらう。これは何よりも嬉しいことである。私は自分の人生觀、生活の指導原理が正しいものであるといふ自信を得た、學生々活を去るに不安はない、卒業から實社會への移行も、スムーズに行はれよう。概括して、非常に有意義な且愉快的講習であつた。然しあまりにも盛澤山の醍醐味を一時に頂戴した觀があり、それを完全に自分のものとするまでに消化吸収するには尙相當の時日を要する。この醍醐味は必ず私の血となり肉となるであらう。

然しその實現された私の姿は將來に見られる。今即急に感想を括るには、まだ不消化の所も多い。今日は思ひつくまゝに断片的な感想を記すことにしたい。

(二)、先づ、最も大きな感激を覺えたのは、聖上の御徳である。星野氏、木下氏のお話に聖上の御日常を承り、驚愕に近い感銘を覺えたのである。聖上の有難さを今度程まざく感じたことはない。理論以上の感激である。志田先生の座談會の時、鹿兒島灣上形も見えぬ民草にお會釋を賜ふ聖上の御姿を拜して涙した私は、又教室で木下先生より同一のお話を承り、又涙したのである。學生々活に於てか様なお話を聞く機會は殆どない。理論を超越した感激は、日本民族の間には直に交流するのである。私はこの感激をより廣くの學生に、人に傳へたい。新體制といふも、結局は臣道實踐といふ心の問題に歸着する。眞の一億一心あつてこそ種々の機構も圓滑に運轉されるのである。機構も必要であり、統制も必要である、然しその外的なものに急なるあまり臣民の教化を忘れてはならない。今度の講習會で受けたこの感激は私の生涯を基礎付けるであらう。

(三)、私は帝大生を再認識した。帝大生は元來傲慢であり利己的である。他人の事には極端に無關心であり、自分の殼にはよりはまり一應自分の生活は整つてゐるが、團體生活には適しない様に見受けられる。高等學校時代寄宿寮の生活を送つた者にこの弊は少いが、帝大生一般としてはどうもこの弊がある。その一例は圖書館などに於ける非常に神経質な又反對に極めて傍若無人な態度に見られる。知識的には進んでゐようが、人格の點になると、不完全な完成を自己の殼に持つに過ぎない。特に高文を受ける者にはこの弊が著しい。試験前後の神経過敏も手傳ひ、性格破産と思はれる程の者さへ往々生ずる。一般的教養の點から云へば悲しむべき程度しかない、試験科目に追はれ

て他に關心を持ち得ないのである。併も最もこの不完全さに徹底した者が一般的に合格率が高い(成績は別問題だが)。私はこの現象を遺憾に思つてゐた。かくして出來上つた官吏と折衝する一般庶民こそんだ迷惑だと考へてゐた。高文制度の可否もこゝに論ぜられよう、又官界不明朗の原因も遠くこの邊に由來するだらうと考へる。これも一つの過程と云へばそれまでだが、かゝる状態は國家的に大きな損失であらうと思ふ。今度の講習會のメンバーにも、大體かゝる傾向の人達が集つた。最初の一日、二日は圖書館さながらの状態が見られた。知人のない者は孤立し、知人ある者はその人と話した。然し日が経つにつれて大きな和が全體をつんで來た。全體の生活が有機的に和のリズムに乗つて來たのである。隔てが除々にとれて、互ひに語りあつてみれば、案外なことに、圖書館の神經質も傍若無人氏も實に素直なよい人間なのである。自己の殼の中味は實によい人間なのである。殼を取去り、ヴェールを剝ぐのは、何といつても話しあふといふことの威力であらう。よい人間でありながらヴェールに包まれるのは話しあはないからである。今度の講習會で誰しも皆知人を得たことを喜んだ、否、語りあふ機會をもつとほしいとの希望も屢々見られた。この點だけから云つても今度の講習會の收穫は大きいと思ふ。

(四)、話しあふことによつて赤裸々の人間が表れる。それは本質的に善良なる人間である。然しそれは更に高次の段階に進まねばならぬ、そこに團體訓練の必要がある。指導者の下に同一の規律に服し、同時に又互に切磋琢磨してこそ更に段階に達し得るのである。一億一心となり、臣道實踐の誠を致し、皇運を扶翼しまつり、未曾有の危機を擔當すべきこの時に當り、團體訓練の必要なるは云ふまでもない。今度の合宿に於ては團體訓練の理想から見る時、まだまだ不満な點が多い。規律は一應守られたが、精神が打込んでない。集合の遅延等はその一例である。もとも

と團體生活に不馴な帝大生の集ひとしては精一杯といつた所が本音かも知れないが、その罪は凡て學生にある。かく云ふ私もその例に洩れない。深く反省する所以である。

(五)、對米關係等意外に切迫してゐることを今更ながら肝に銘じた。經濟情勢等、材料の發表せられない爲もあるがあまりにも見識のなかつたことを恥かしく思ふ。この認識不足、惹いては時局樂觀は單に私だけのみならず、學生一般、更に國民一般ではなからうか。國民の心の準備は完全ではない。事態一變は一般には驚愕を以て迎へられよう。固り時局を喋々することは慎まねばならぬが、指導者たる者は何等か適當なる方法を講じ民心の動搖を防ぎ、更に決意を固めさせるべきであらう。銀座街頭戰時體制には程遠い、ショーウィンドウの新體制は結構である、然し眞の新體制は歩む人の心にあらねばならぬ。この時局の切迫を肝に銘じつゝ、私は更に私達に寄せられた先人よりの期待の大きいのに又打たれた。將來の日本を背負ふは今の學生であるとは充分に知つてゐる。然し官吏としての私達の立場が如何に重大であるか、今更に身を以て體驗した思がある。吉田氏、潮氏などの話はこの意味で私に大きな感銘を與へた。

(六)、大學問題が盛に論ぜられてゐる。學問と政治といふことも論ぜられてゐる。一方に學問の國家目的を説き、一方に學の獨立を説く。大學は共產主義の巢窟であるとまで極言される。現在の大學が知識の教授に偏し、教授と學生との接觸は薄く、人格の養成といふ點に於て缺點を有することは事實である。誰しも現在の大學に満足してゐる者はあるまい。然し、一派の論者の云ふ如く帝大が共產主義の巢窟であり特に法學部の教授が思想的に反日本的であり、一舉に葬り去らるべきものであらうか。私は否と云ひたい。この時局に際して臣道實踐を拒否する者は一人

もないであらう。大學も轉換しつゝある、現在有する組織を精一杯に活用し有爲なる人材を世に送らうとしてゐる。その努力は認めねばならぬ現に組織上にも種々の新體制を見せてゐる。大學は大學として尊重されねばならぬ。破壊の爲の破壊は文化の否定破壊に外ならない。凡ゆる者に鬭争的罵詈を浴せ、而して我こそは日本一の愛國者なりと大見得を切る一派の者より、罵詈を浴せられる教授の方が大局的に見てより愛國者であらう。成程大學の組織は時局に即應しないものが多い、それに對する修正も甚だしく微温的であつて満足出来ぬ。然しさらばと云つて破壊の爲の破壊は意味をなさない。大學再編成は力強い建設を伴つて歩一歩堅實に進まねばならぬ。現在の大學は轉換期の姿である、觀念の轉換と組織の轉換との並行する時、眞に帝國大學たるに相應はしい大學は出來上るであらう。如何なる轉換よりも觀念の轉換は六敷ケしいといふことは眞である。破壊の爲の破壊は、萬一次に一つの組織を作つても建設とはならないであらう。又然し觀念の轉換は困難なるが故に教育の力は現今最も必要とされる。されば教授としてこの點に力を致すべきは固り當然である。この點については組織の新體制以上に微温的なるものがあらう、こゝに不満を感じない者はあるまい。これが一面非日本的と罵詈される一因とならうが、これは教授學生共に三省すべき點である。一人一人をとつて見る時、臣道實踐を拒む者はない、否進んで實踐しようとしてゐる。然しそれは合一して一の大きな力を發揮せねばならぬ。問題はこゝにある、破壊の爲の破壊ではない。

日本學生協會なるものがある。小田村問題を契機として大學を攻撃すること甚だ急である。忠こそ日本人の第一義的のものであり、師弟道も忠といふ基底に立つといふその根本趣旨には私は賛成である。日本學生協會が日本のなものへのひたむきな研究團體である限り、私はこれに賛成する。然し今度の大學攻撃は分を逸脱したものであ

る。政治運動と言ふも過言ではない。激烈なる宣傳ビラは、往時の赤化運動のそれと異なる所ない。彼等の根本趣旨には賛成するも、實際の行動に於て眞向から反對する、これは破壊の爲の破壊である。尤もその意氣だけは現在の悄沈した學生の氣風に對比し、買ふべき所はある。又同時にあの激烈な宣傳ビラを許可した本富士署長の考を残念に思ふ。何を恐れて許可したのであらうか。これは正しく警察の權威の失墜である。

(七)、官吏として進む私達は、最も多難の道を行く者であると、殆ど凡ての講師から聞かされた。固りそれは望む所である。官吏としての道は臣道實踐の一語に盡きるとも聞いた。私は益々決意を新にした。進んで難に赴くことを男子の本懐である。一身を捧げて國家に盡すべき官吏として、働き甲斐ある仕事に全身全靈を打込んでこそ、生活にも積極的な喜と味とを生じよう。この喜と味の生ずる時即ち御奉公全き時である。道は自ら歸一する。

(八)、私が鐵道省を選んだのも主として右の様な趣旨からであつた。一身を捧げて御奉公すべき官吏として、趣味と仕事との一致する時、最も完全な御奉公が苦勞なく出来、併も生活にも喜と味とを生ずるものであらう。苦勞なく御奉公出来る時、その御奉公が完全なものとなるばかりでなく、最も能率も高い譯である。官吏の能率の最も要求される現在、趣味と合致した所に働いてこそ、最も早くから、又能率自體に於ても最も高く、能率は發揮されるであらう。私は鐵道に趣味を持つ。鐵道に働くに苦勞はない(苦勞とは肉體的苦勞といふ意味ではない)。又従業員の勞働問題等にも關心を持つ。私はこゝで喜んで一身を捧げ、臣道實踐、職域奉公の誠を致すつもりである。

(九)、教場に於ける講演にも多大の感銘を受けたが、就中大なる感銘を受けたのは志田先生の座談會である。橋田文相の科學する心といふことも志田先生のお話を通じてやゝ理解に近い所まで到達した様な氣がする。先生の研究目

標、研究態度に先づ打たれた。國文學の蘊蓄を驅使される先生のお話は愚かな頭には理解困難であるとはいへ、心の琴線は、微妙に高鳴つたのである。普遍化の問題は残念ながら全くわからない、一生懸命に拜聴しながら、何を話されたのかすら思出せない。然しそこに一脈の道のあることは感じられる、これを頼りに私も遅蒔きながら研究を復活したいと思ふ。古事記と日本紀のお話には全く感激した、物の見方が展げた様な喜を感じた。世上往々にして、自己の空虚な理論をカバトする爲に、書出しに結語に古事記を引用し、吉田松陰を引用し、御製を引用する者があるが、かゝる態度に憤懣を感じてゐた私は、初めて正しい研究態度に接した思がある。學問と政治との聯關は正しいものでなければならぬ。自ら歸一する所に正しい道はあらう。そこに健全なる思想がある。こぢつ的な引用に裝飾された偏狹な理論は鬭争的な特色とし、健全なる國家思想、國民思想とは言はれない、往々にして破壊の爲の破壊の具となる所以である。志田先生に接し得たことは何よりも喜ばしい、生意氣な言分で恐縮しながらも、將來も御指導の程御願申上げる次第である。

尙更不可解ながら坐禪からも大きな感銘を得た。禪については概念的には知り得た様に思ふものゝ、それが概念の遊戯の範圍に屬し身についたものでないことを自ら認める。結局禪については入口を望見したのみで、何もわからない。幸にも足の痛さは感じないで、平氣で一時間坐り得たが、肝腎の心の問題は不可解である。然し云ふに言はれぬ感銘を覺えた。志田先生の場合と同様に私の魂に相觸れる何物か大きな力を持つてゐた。目を經た今、この力は益々大きくならうとしてゐる。私は無理にも機會を作り、奥野師の教を受けたいと念願してゐる。師は一週に一度でよいと言はれた。してみれば明年よりこの念願は實現されよう。

(十)、以上思ひつくまゝに断片的に感想を記した。或所は足りず、或所は駄辯を弄し過ぎたであらう。歸省前のこととて、二十六日までにはこれ以上訂正する暇もない。感想はよしそれが断片的で、且その芽は不揃であらうとも、この芽は立派に生長するであらう。この芽を生長させて行くのが私の人生である。私の心には種々の芽生えがある、そしてその生長の方向も果しない大空に直行し、その勢も非常なものがあると感ずる。意識されなかつた芽がはつきりと今は意識される。これは生現實の充實であり、正に代表の答辭中にあつた如く講習を契機として私は新しいものを掴み、自ら變つたのである。この變化は無爲に墮した生活に活を入れるものとして最も大きく作用する。時局と責任の重大とが更にこの感に複合する。二六〇〇年の有終の美となると同時に、學生々活の總仕上げともなることを此上なく喜ぶものである。この感激は他面私に自信を與へた。官吏として立派に御奉公出来、臣道實踐皇運扶翼の誠を致し得る自信が湧いて來た、強化された。私は喜んで官吏として一身を國家に捧げる。僅か一週間の短期講習ながら、私はこれにより大きな影響を受けた。心身共に元氣に満ちて來た感がある。この元氣を以て大いに頑張らう。

最後に再び日本文化協會並に志田先生初め諸先生にお禮を申上げて筆を擱く。

感想 其三

一、皇紀二千六百年、而も國の内外多事多端の時に當り、吏道修鍊講習會が此度び日本文化協會の手に依りて計畫實施せられましたことは、二十六世紀の掉尾を飾るにふさはしい文化事業として、眞に感激に堪へない次第であります。受講生としての吾等は、この記念すべき二千六百年の佳き年に無事に高等試験行政科試験に合格、夫々各省に採用を決定された身で、而もこの第一回の吏道修鍊講習會に出席受講出來たといふ、まことに何といふ幸運兒であらうと四恩に感謝すると共に、吾等の責任の重大なるを愈々感得して、更に一段の努力を神に誓つた次第であります。主催者としての日本文化協會、並に講師として、また指導者として、親しく吾等が御指導を賜りました諸先生に對し衷心感謝の意を表します。

二、講習會の期間、時間割は大體あれでよろしかつたと思ひます。唯一つ、一日のうちで一時間ばかり(半時間でもよろしい)夕食後か坐禪のあと、就寝前に、受講者一同が一堂に會して、自由に雑談する場所と時間を與へて頂けましたら、更によろしかつたらうと思ひます。

三、講師の御顔觸れに對しては、何ら異存はございません。その經歷、人格、識見に於て申分なく、更にその熱意に於ても缺くるところなく、吾ら受講生を眞に懇切に御指導下さいましたことに對して、唯感謝の言葉一つあるのみ

でございます。

星野先生の國體の本義に關する御話は誠に有難く拜聴致しました。

紀平先生のなるの哲學には非常に啓發されました。

平出先生の國外情勢、奥村先生の新體制と國防國家、沼田先生の國家總力戰の御説明は吾等の心に強い感銘を與へて下さいました。

橋田先生、挾間先生、香坂先生、吉田先生、潮先生の官吏の道に關する御訓話は、大先輩の御言葉として、眞に有難く拜聴致しました。

木下先生の御話には、畏くも陛下の大御心の萬一を拜し奉りて、恐懼感激致しました。

此度の講習會に於きましては、官吏道に關する御訓話が殆んど全部内務省系出身の大先輩の御話であつたといふことに對して、他の省出身の大先輩の御話をも拜聴したいといふ希望を持つものもございましたが、一應、尤もなる理由もあることながら、私は本講習會の趣旨から推して、必ずしも強いて各省の大先輩に御願ひしなければならぬといふこともないと思ひます。出來得ればそれに越したことはありませんが、時間の都合もあることで、要はその人格と識見と熱意にあるので、その經歷については餘り細く神経質になる必要はなからうと思ひます。

尙、民間人の物の考へ方と、その官吏に對する希望といふ様な點について、民間の識者の御意見をも拜聴致したく存じました。次回より、講師に一人、民間の識者を御選び下さるならば、更に一層よろしからうと存じます。

四、民間の會社方面に行かれる學生のためにも同様の修練講習會を開くべしとの意見を持たれる方もございますが、

趣旨にはまことに結構な思ひつきとして賛成致しますが、具體的には同様の修練講習會は開催不可能乃至は不適當に近からうかと存じます。受講者の資格とその人數、講師に如何なる人物を選び、如何なることがらを講ずるか等を考ふる時、吏道修練講習會の如くには容易に、面も效果的には行くまいと思はれます。それよりも、臣道實踐は先づ官吏からといふ點に重點を置かれて、良き官吏をつくることに御盡力下さるが早道と存じます。官僚獨善といふ様な非難は、官吏になりゆく學生のためのみかゝる講習會を開催されたといふ様なさう言ふことがらに對して受けるものでは決してありません。正しいことをするのに、而も邦家のために最も意義深き文化的事業の一として、あらゆる方面の人々から喜ばれていくことをするのに、さう一々氣兼ねしたり、遠慮をしたりして、卑屈になる必要もなからうと思ひます。

五、坐禪については、私自身はかつて參禪の經驗もございませんので、別に事新しく何も申し上げることはございませんが、唯、奥野先生の御人格とその御懇切なる御指導に接して、非常に啓發されるところがございました。衷心感謝に堪へない次第でございます。

六、以上の通り、此度びの講習會は、非常に満足な氣持で、愉快に受講させて頂きましたことを心から御禮申し上げます。遙かに、日本文化協會の發展と諸先生の御健康を御祈りして已みません。

感想 其三十一

『ある友人との問答』

日時 昭和十六年一月某日

場所 東大図書館前芝生

問「やあ久し振りだね」

答「全く。君はいやに早く歸郷してしまつたね」

問「あゝ、一寸考へがあつてね。それより君は、あの講習會に行つたかね」

答「参加したよ」

問「あれは強制的だつたのかね」

答「いや任意だ。而して僕は喜んで出たのだ」

問「喜んで？」

やゝ間、友人再び。

問「君は帝大の學生で、しかも休暇でもない時に、他の機關からの教育を甘んじて受けるのか」

答「いや寧ろ、學期中だからこそ喜んで受けたのだ」

問「おかしいね。君は教育の一元化と云ふ事を考へないのか。帝大の學校教育では不足なのか」

答「じゃ、君こそ家庭教育と學校教育とをどう考へるのか」

問「相互補助的なものだと思ふ」

答「さうだらう。僕はあの講習會は一種の家庭教育だと考へたのだ。詳しく云へば、我々の下宿やその他での、不完全な私生活の補完であり、指導だと思つたのだ」。

問「成る程分つたよ。じゃ君は何故、あれを家庭教育の範疇に入れ、學校教育の中に數へなかつたか」

答「君こそ、家庭教育と學校教育の分析を何故、徹底させるのか。教育はもとは一ではないか」

問「君はごまかして居る……………」

數分沈黙

問「御飯はうまかつたか」

答「非常に」

問「君は三年間の寮の生活をやつたから、講習會生活でも御飯が、うまく感じたのだ」

答「全く、今の我々の團體生活は無味だな」

問「軍人の話はどうだつた」

答「海軍は頼しく思つた」

問「潮さんの話は」

答「祖父さんから話を聞いて居るやうな気がした。もつと長くやつてもらひたかつた。それにしても眞面目に一つの途を踏んだ人はやはり深い強さがあるね」

問「逓信省のO氏は」

答「元氣だよ、誰かが官吏には惜しいと云つたよ」

問「官吏に惜しいとはどう云ふ意味か。官吏にこそあゝ云ふ人が必要なのではないか」

答「新聞でも『官吏に惜しい人物』と云ふ文句が度々使はれて居るね、あれはどう云ふ意味か」

問「君は問ふ方ではない。答へる方だよ。協會のM氏はどんな人だ」

答「あの人の印象が結局、俺には一番強かつた。尤も此の前の晩も會つたが」

問「偉い人か」

答「偉い？ とに角、今の日本には必要な人だ」

問「君がさう思ふ人は、きつと偉い人だらう。世間の常識では偉くない人だらう」

答「……………」

問「チャーチルだつて、ビスマルクだつて大學はびりだよ。その人も大學はきつと、成績不良だらう。高文が優秀では偉い奴にはなれないのだよ。英國を見ろよ。危機を頑張つて居るチャーチルは敵ながら天晴れだと思はないか。あれは大學でビリだつたお陰だよ」

答「と云ふと」

問「君は偉い奴になりたいかね、それとも立身出世したいかね」

答「まつて呉れ、何だか混亂して良く分らない」

問「君は、矢野知事を偉いと思ふか」

答「……………」

問「分らないのだね。とに角、講習會で君は何か得て來たらう」

答「あゝ」

問「そこから、矢野知事問題を考へて御覽」

答「……………」

問「よく、考へづまる男だな。日米戦はあると思ふか」

答「……………」

問「君が、答へられなくなつただけ、確に進歩したよ」

涯しなき問答は此で一段落とする。

感想 其三十二

今回、日本文化協會主催の、第一回吏道修鍊講習會に參講したる者の一人として、貴協會の時宜に適したる御事業に對して、滿腔の賛意を表し、併せて今回の講習に際して、色々と格別の御配慮を下さいました諸先生方々の、數々の御心勞と御厚情に對して、心から感謝の念を禁じ得ない次第であります。小生、一週間の講習に於て、いさゝかの所感もありますから、左に簡単な御報告致します。

- 一、高名な各先生方々の御講義は、將來官吏として世に處すべき者への實踐的な教訓として、眞に有意義、且適切であつたと思ひます。慾を謂ひますと、政界各方面の人士を網羅して下さいます様に御願ひします。
- 二、一週間の短期間ながら、全然見知らなかつた人々が同じ釜の飯、同じ屋根の下の生活をする事に依つて、相互の顔を知る様になつたことは、ただ單に人間的なばかりではなく、將來國務の執行に於ても、有機的聯關を通して協和相助の美風を發揮する基を拓いたものとして、大書特筆すべき企てであつたと思ひます。
- 三、奥野先生の坐禪の行は、小生も每晚打たれ通した者として、殊更に感銘深きものがあります。苦しさを知り、且つ之に耐へる意思を養成する上に、是非必要かと思ひます。其の外、くだらない理くつに墮せんとする時、電光を切る底の峻嚴なむちの味は、慾情を抑壓するにも必要かと思ひます。ただ一度經驗したる小生としましては、第二

回の講習會の時は今回見たいになまぬるくしないで、少くとも一日二時間丁として深山にこだまする樵夫の伐木聲の様な音が道場にひびきわたるに様、特に御願ひします。何も意地悪で謂つていゝのではありません。(可笑！)
以上、簡単な感想として御報告致します。

感想 第三十三

一、講話に就ては、會の中途迄は結局理論としても、深遠なるものを期待することは時間の關係上無理があるべく、その人選から云ふも、その大部分は若人に満足を與ふる新鮮味を缺くは必定であると云つた見地から、大きな期待を有してゐなかつたのであるが、會期の終了に伴つて反省して見ると、各講話者は御説話の内容は兎に角として、その流るゝ言辭の裏から浸透して來る、人格、精神、人生觀、世界觀に感動してをる自分を發見して驚いたのである。矢張、人生の先達であり、吏道の大先輩が歩むで來たその道程に於て、魂を如何に玉碎して來たか、各講話者の歩む道は異別でありながら、到達した所の境地には一種の共通點があることは、自分としても深く考察して見る必要あることを知らされたのである。

一、私は、講習會に参加して、自分がよくも日本國に生れたことの喜びを喜ぶことの出来る人となり得たこと、少くとも、その人となり得るの方向に進み得る自信を與へられたことが、最も大きな收穫と云へると思ふのである。こ

のこの一つの適用の場合を述べれば、左の様である。

私は、昭和十二年の八月から本年の九月迄、第一線歩兵大隊附の主計として中支の戦線に参加したものであるが、各地の戦闘に於ける戦死者の或者が、その臨終に於て、天皇陛下萬歳を叫び軍人に給はりたる御勅諭を奉唱するの事例を自分の目で見、其の聲を耳で聞いた場合、私としては實にかゝる行爲者の心境を十分に了解し得なかつたのである。言語に絶する崇高なるものを感じると云ふよりも、私としては民族の一員が、異域にたげれる悲痛さと云つたものを、より強く感ずると云つた次第であつたが、此の受講に依つて、私は彼の人々の心の境地の何ものなるかを始めて了解したのである。従つて、又私自身の戦死の場合を豫想して、（かゝる豫想は、主計としても戦闘に参加する場合には、相当切實なるものとなるのである）如何なる心境を以て人生の終期に臨み得るか、を考へて見たのであるが、私の達し得た所は精々、「自分の死を絶客觀的に見て、極めて靜かな心境を以て死の轉歸を取りたい」と云ふことであつた。結局、私は日本人でありながら日本人の自覺に徹するの教育を受けてをらなかつたのである。私は知らなかつたのであるが、今は戦死のことも解決出來たつもりである。

一、講習會を通して感得せられた日本精神的なる人生觀、信念と云つたものが、今後愈々育成強化せられ、組織系統付けられるならば、現在日本の社會經濟諸問題解決方策の基底を爲して、日本の進路を誤なからしむることを得るのではないかと云ふことを感じたのである。

第一に大義なり、明かにして不拔なる大義を持する人を得て日本は救はるゝなり、大義と人との連りを得ざるべからざることを強く感ぜり。

一、坐禪はそれ自身としては、何等の目的を設定し得るものにあらざるべきも、その行つた結果は、強き心の人を作るものであらう。

一、かく考へて、第一回吏道修鍊講習會の意義深きものたることを疑はないのであるが、之を概觀するに、私としては指導精神が漠然としておる様に考へられる。徒らに盛り澤山なる内容とせずして、期間も短いのであるから、先ず吏道の根本理念を明確にして計畫を樹立するならば、會は相當色彩をことにするものとなり、効果も更に偉大になるのではあるまいか。

昭和十五年十二月

(非賣品)

東京市麴町區日比谷公園 市政會館內

日本文化協會

電話銀座一一七四番

410
377

